

「学校規模適正化に関するアンケート調査」 報告書

平成28年7月

交野市学校規模適正化室

目次

	頁		頁
I. アンケート調査の概要		Ⅲ. アンケート調査のクロス集計結果	
1. 調査の目的	2	1. 小学校の規模について	28
2. 調査に至る経緯	2	2. 中学校の規模について	32
3. 調査の方法等	2	3. 通学距離について	36
4. 調査の対象及びアンケート種別	2	4. 教育環境の整備について	40
5. 調査の内容	4		
6. 回収結果	4	Ⅳ. その他意見（自由記述欄）への回答について	
7. 集計分析	5	1. 保護者用アンケートその他意見	48
		2. 教職員用アンケートその他意見	61
Ⅱ. アンケート調査の単純集計結果		Ⅴ. 調査結果について	
1. 回答者の属性について		1. 小学校の学級人数について	64
① 居住地区について	6	2. 小学校の学級数について	64
② 就学校及び児童生徒の学年について	7	3. 中学校の学級人数について	65
③ 勤務先の学校について	8	4. 中学校の学級数について	65
2. 小学校の規模について		5. 小学校の通学距離について	65
① 学級人数について（1）	9	6. 中学校の通学距離について	66
② 学級人数について（2）	10	7. これからの小中学校に期待する役割・機能について	66
③ 学級人数について（3）	11	8. 学校の適正配置の進め方について	66
④ 学級数について（1）	12	9. 学校規模の適正化を進める上で配慮すべき点について	67
⑤ 学級数について（2）	13		
⑥ 学級数について（3）	14		
3. 中学校の規模について			
① 学級人数について（1）	15		
② 学級人数について（2）	16		
③ 学級人数について（3）	17		
④ 学級数について（1）	18		
⑤ 学級数について（2）	19		
⑥ 学級数について（3）	20		
4. 通学距離について			
① 小学校の通学距離について	21		
② 中学校の通学距離について	22		
5. 教育環境の整備について			
① これからの小中学校に期待する役割・機能について	24		
② 学校の適正配置の進め方について	26		
③ 学校規模適正化を進める上で配慮すべき点について	27		

I. アンケート調査の概要・経緯

1. 調査の目的

交野市立小中学校の適正規模・適正配置を検討するにあたり、学校現場に最も係わりの深い保護者及び学校教職員の考えを推察することを目的として、本アンケート調査を実施した。

2. 調査に至る経緯

本市教育委員会では、子どもたちの健やかな成長と学校教育の充実を図るため、平成26年度より「交野市学校教育ビジョン」を策定し、中期的展望に立ち、教育行政を進めている。

本市は、昭和40年代後半から昭和50年代にかけて盛んに行われた住宅開発等により人口が急増し、昭和57年度には児童生徒数が12,164人となり最大となった。児童生徒数の増加に伴い、新校の開校が相次いだ。その後児童生徒数は減少に転じ、平成28年度には児童生徒数はピーク時の約54%の6,563人となっている。今後も減少傾向は続き、平成45年には児童生徒数が約4,200人（ピーク時の約35%）となり、さらに平成52年度には児童生徒数が約3,800人（ピーク時の約31%）となる見込みとなっている。今後は教育環境や学校運営に支障をきたす小規模校が複数校現れることが懸念される。

一方、前述の人口急増期に建設した多くの学校施設は、老朽化の進行により、施設の更新が必要となっているなどの課題もある。こうしたことから、今後も本市小中学校における良好な教育環境の維持向上、更なる少子化、学校の老朽化への対策、「小中一貫教育」等の新しい教育環境の整備に資するため、学校規模適正化に向けた検討を行い、「学校規模適正化基本計画」及び「学校施設等管理計画」を策定するため、本アンケート調査の実施に至った。

3. 調査の方法等

- (1) 作成 交野市教育委員会学校規模適正化室
- (2) 期間 平成28年6月13日～6月17日（提出遅延分は6月24日着分まで受付）
- (3) 方法 市立小中学校及び市立幼稚園から保護者・教職員へそれぞれ配布し、回収した（最終回収先：学校規模適正化室）

4. 調査の対象及びアンケート種別について

本アンケート調査の対象は、市立小中学校及び市立幼稚園の保護者並びに市立学校教職員とし、アンケートの種別は、「保護者用アンケート」「学校教職員用アンケート」の2種とした。

「保護者用アンケート」については、市立小学校の1・3・5年の1組または2・4・6年の1組、市立中学校の1・2年の1組、市立幼稚園の5歳児クラスの保護者にそれぞれ次表のとおり配布した。また、「教職員用アンケート」については、市立小中学校の全教職員に次表のとおり配布した。

上述の対象から、以下、本調査においては、小学校保護者は小学校全体の保護者を、中学校保護者は中学1、2年生の保護者を、幼稚園保護者とは幼稚園5歳児クラスの保護者を指すものとする。

	保護者用アンケート								教職員用アンケート
	1年1組	2年1組	3年1組	4年1組	5年1組	6年1組	5歳児クラス	配布数	配布数
交野小学校	32		27		31			90	32
星田小学校		37		31		34		102	28
郡津小学校	36		35		32			103	36
岩船小学校		33		31		29		93	24
倉治小学校		36		29		30		95	37
妙見坂小学校		28		29		38		95	27
長宝寺小学校	33		34		37			104	18
旭小学校		23		31		27		81	26
藤が尾小学校	21		31		25			77	22
私市小学校	35		33		27			95	25
第1中学校	32	37						69	36
第2中学校	39	38						77	42
第3中学校	34	35						69	43
第4中学校	39	41						80	38
第一幼稚園							39	39	
第二幼稚園							42	42	
第三幼稚園							57	57	
合計	301	308	160	151	152	158	138	1,368	434

※「保護者用アンケート」については、回答者である保護者の数を正確に把握することが困難であるため、子供の数と保護者の数を1：1とみなして調査を行った。そのため、一人の保護者に対して、複数の就学適齢期児童・生徒がいること等は考慮していない。

※小中学校保護者対象アンケートについて、各学年1組を対象とすることで学年全体の保護者の考えを推察することを意図し、また、小学校保護者対象のアンケートについては、1・3・5年または2・4・6年を対象とすることで、各学校について概ね低学年から高学年までの保護者の考え（小学校保護者全体の考え）を推察することを意図している。

5. 調査内容

(1) 回答者の属性

- ① 居住地区について（保護者用アンケート設問）
- ② 就学校及び児童生徒の学年について（保護者用アンケート設問）
- ③ 勤務先の学校について（教職員用アンケート設問）

(2) 小学校の規模について（保護者用アンケート・教職員用アンケート共通）

- ① 学級人数について
- ② 学級数について

(3) 中学校の規模について（保護者用アンケート・教職員用アンケート共通）

- ① 学級人数について
- ② 学級数について

(4) 通学距離について（保護者用アンケート・教職員用アンケート共通）

- ① 小学校の通学距離について
- ② 中学校の通学距離について

(5) 教育環境の整備について（保護者用アンケート・教職員用アンケート共通）

- ① これからの小中学校に期待する役割・機能について
- ② 学校の適正配置の進め方について
- ③ 学校規模適正化を進める上で配慮すべき点について

6. 回収結果

回収結果は次表のとおりとなった。

	保護者用アンケート										教職員用アンケート		
	1年1組	2年1組	3年1組	4年1組	5年1組	6年1組	5歳児クラス	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
交野小学校	32		27		31			90	78	86.7%	32	32	100.0%
星田小学校		37		31		34		102	79	77.5%	28	19	67.9%
郡津小学校	36		35		32			103	85	82.5%	36	28	77.8%
岩船小学校		33		31		29		93	71	76.3%	24	18	75.0%
倉治小学校		36		29		30		95	90	94.7%	37	30	81.1%
妙見坂小学校		28		29		38		95	73	76.8%	27	24	88.9%
長宝寺小学校	33		34		37			104	82	78.8%	18	16	88.9%
旭小学校		23		31		27		81	61	75.3%	26	22	84.6%
藤が尾小学校	21		31		25			77	64	83.1%	22	20	90.9%
私市小学校	35		33		27			95	78	82.1%	25	21	84.0%
第1中学校	32	37						69	60	87.0%	36	32	88.9%
第2中学校	39	38						77	64	83.1%	42	41	97.6%
第3中学校	34	35						69	42	60.9%	43	43	100.0%
第4中学校	39	41						80	74	92.5%	38	30	78.9%
第一幼稚園							39	39	30	76.9%			
第二幼稚園							42	42	26	61.9%			
第三幼稚園							57	57	31	54.4%			
合計	301	308	160	151	152	158	138	1,368	1,088	79.5%	434	376	86.6%

7. 集計分析

(1) 単純集計

すべての設問に対して単純に集計を行った。

(2) クロス集計

保護者用アンケート結果を対象に、次のクロス集計を行った。

対比対象設問：設問3、4、5、6、7～11

①「小学校保護者」「中学校保護者」「幼稚園保護者」の対比による集計

②「長宝寺小学校保護者」「長宝寺小学校を除く公立9小学校の保護者」の対比による集計

※長宝寺小学校は、本市における最小規模の公立小学校であり、学級規模は平成28年度5月1日時点6学級である。

※長宝寺小学校を除く公立小学校の学級規模は、平成28年度5月1日時点で全校12学級以上である。

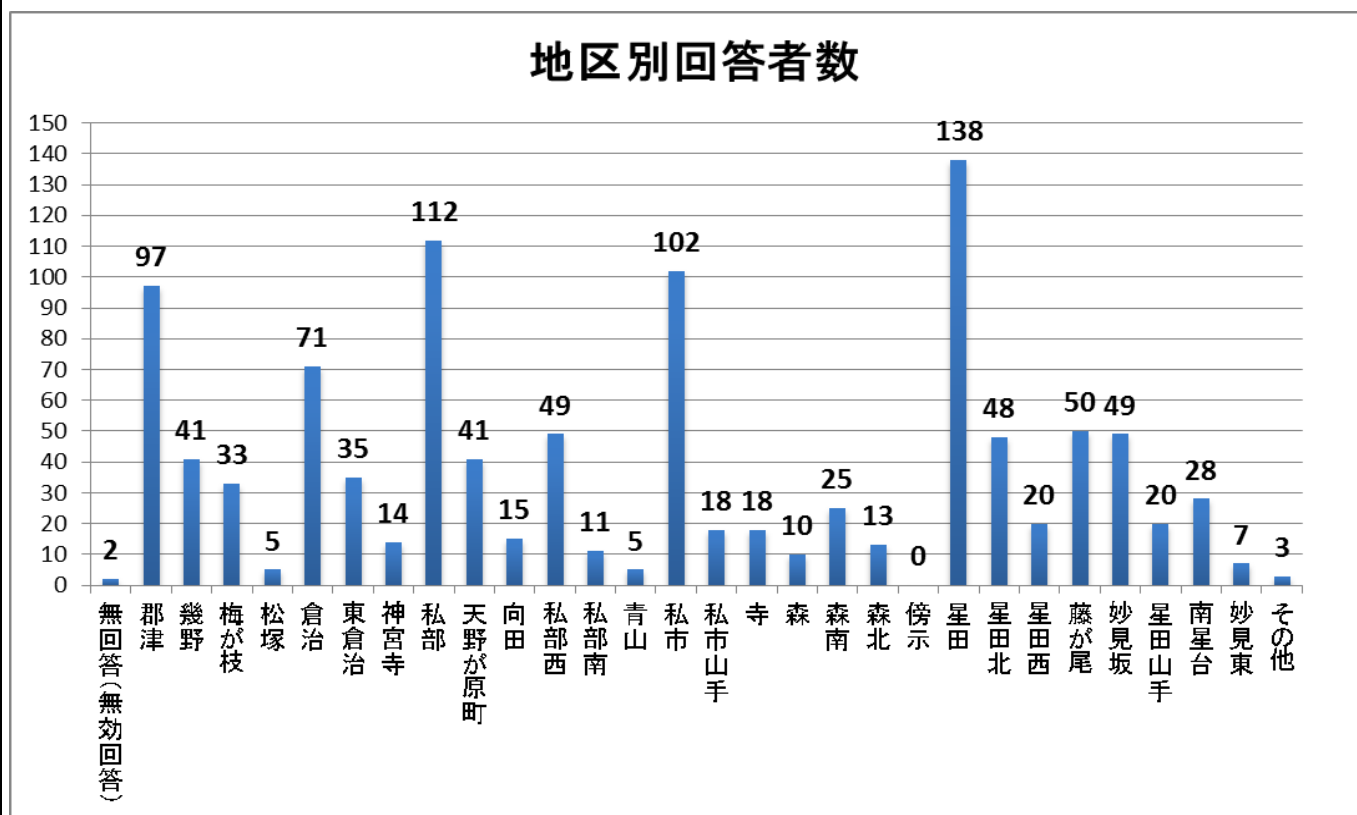
Ⅱ. アンケート調査の単純集計結果

1. 回答者の属性について

① 居住地区について（保護者用アンケート設問1）

問 あなたのお住まいの地区はどこですか。

	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	2	0.2
郡津	97	9.0
幾野	41	3.8
梅が枝	33	3.1
松塚	5	0.5
倉治	71	6.6
東倉治	35	3.2
神宮寺	14	1.3
私部	112	10.4
天野が原町	41	3.8
向田	15	1.4
私部西	49	4.5
私部南	11	1.0
青山	5	0.5
私市	102	9.4
私市山手	18	1.7
寺	18	1.7
森	10	0.9
森南	25	2.3
森北	13	1.2
傍示	0	0
星田	138	12.8
星田北	48	4.4
星田西	20	1.9
藤が尾	50	4.6
妙見坂	49	4.5
星田山手	20	1.9
南星台	28	2.6
妙見東	7	0.6
その他	3	0.3
合計	1,080	100

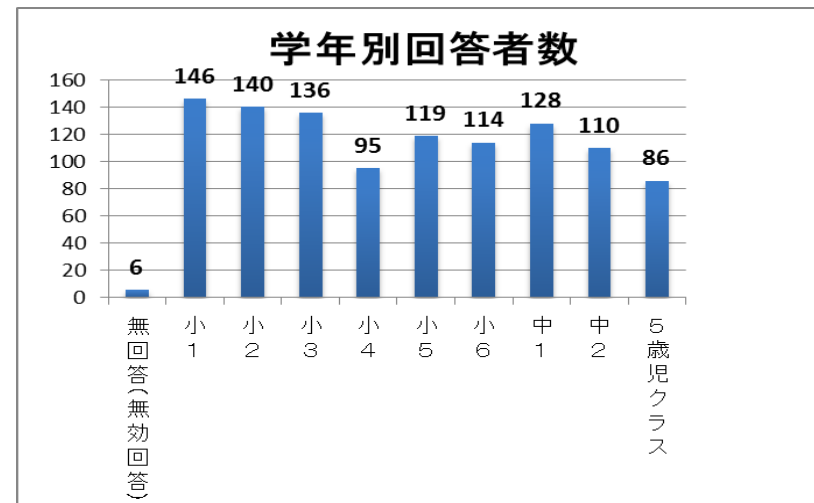
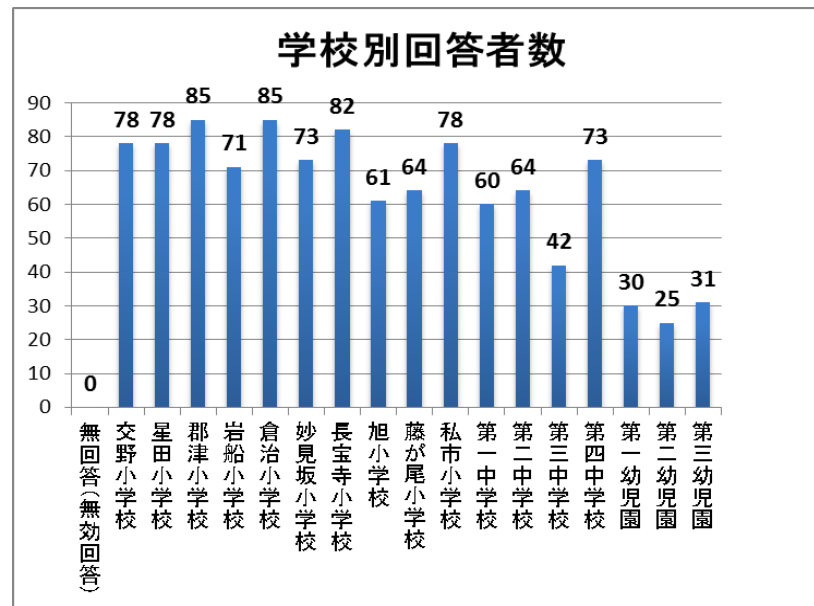


② 就学校及び児童生徒の学年について（保護者用アンケート設問2）

問 あなたのお子様が通学しているのはどの学校ですか？また何年生ですか？

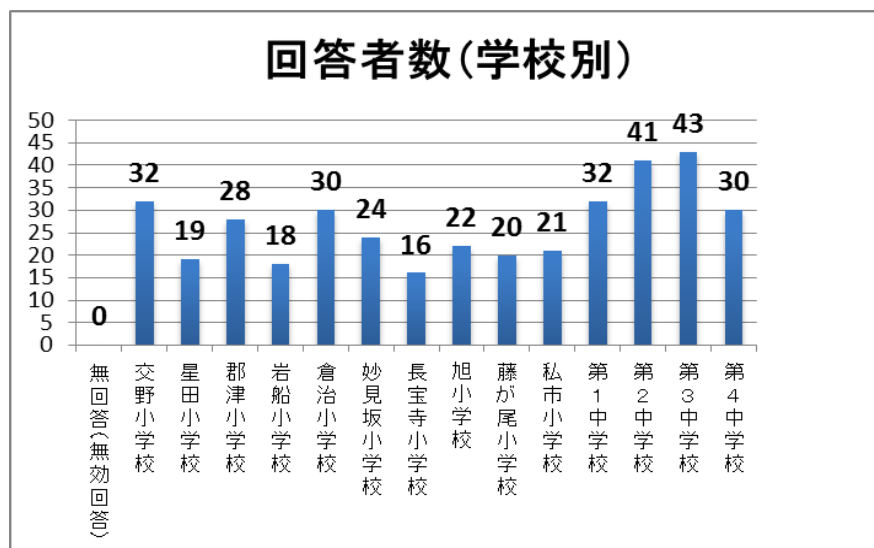
	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	0	0
交野小学校	78	7.2
星田小学校	78	7.2
郡津小学校	85	7.9
岩船小学校	71	6.6
倉治小学校	85	7.9
妙見坂小学校	73	6.8
長宝寺小学校	82	7.6
旭小学校	61	5.6
藤が尾小学校	64	5.9
私市小学校	78	7.2
第一中学校	60	5.6
第二中学校	64	5.9
第三中学校	42	3.9
第四中学校	73	6.8
第一幼稚園	30	2.8
第二幼稚園	25	2.3
第三幼稚園	31	2.9
合計	1,080	100

	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	6	0.5
小1	146	13.5
小2	140	13.0
小3	136	12.6
小4	95	8.8
小5	119	11.0
小6	114	10.6
中1	128	11.9
中2	110	10.2
5歳児クラス	86	8.0
合計	1,080	100



③ 勤務先の学校について（教職員用アンケート設問1）
問 あなたの勤務先はどの学校ですか？

	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	0	0
交野小学校	32	8.5
星田小学校	19	5.1
郡津小学校	28	7.4
岩船小学校	18	4.8
倉治小学校	30	8.0
妙見坂小学校	24	6.4
長宝寺小学校	16	4.3
旭小学校	22	5.9
藤が尾小学校	20	5.3
私市小学校	21	5.6
第1中学校	32	8.5
第2中学校	41	10.9
第3中学校	43	11.4
第4中学校	30	8.0
合計	376	100



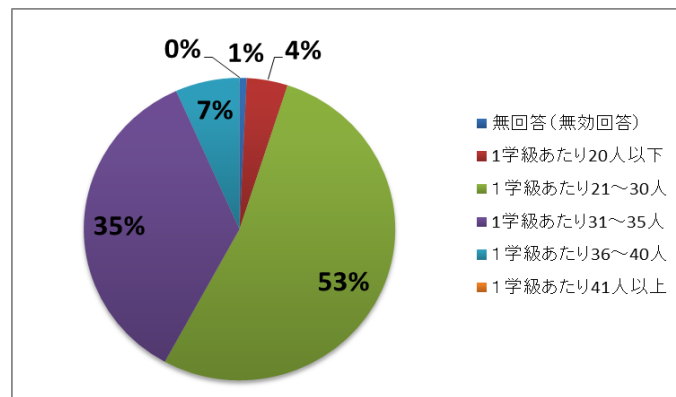
2. 小学校の規模について

① 学級人数について（１）（保護者用アンケート設問3、教職員用アンケート設問2）

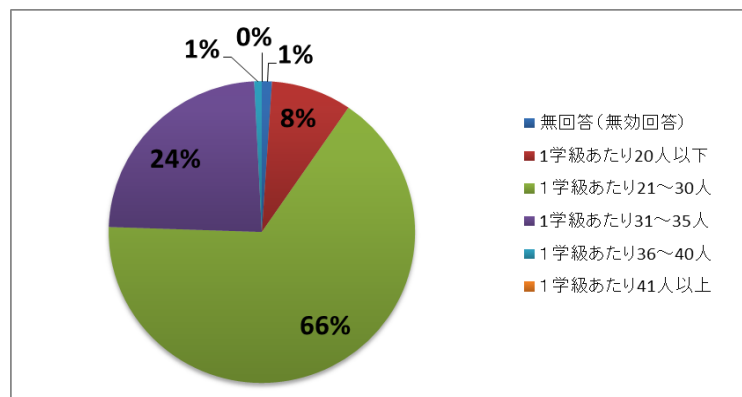
問 小学校の児童数は、法令によると「1学級40人を標準とする」となっていますが、どの程度の学級人数が望ましいと思われますか？1つお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	8	0.7	4	1.1
1学級あたり20人以下	46	4.3	32	8.5
1学級あたり21～30人	572	53.0	248	66.0
1学級あたり31～35人	382	35.4	89	23.7
1学級あたり36～40人	72	6.7	3	0.8
1学級あたり41人以上	0	0	0	0
合計	1,080	100	376	100

～保護者回答～



～教職員回答～

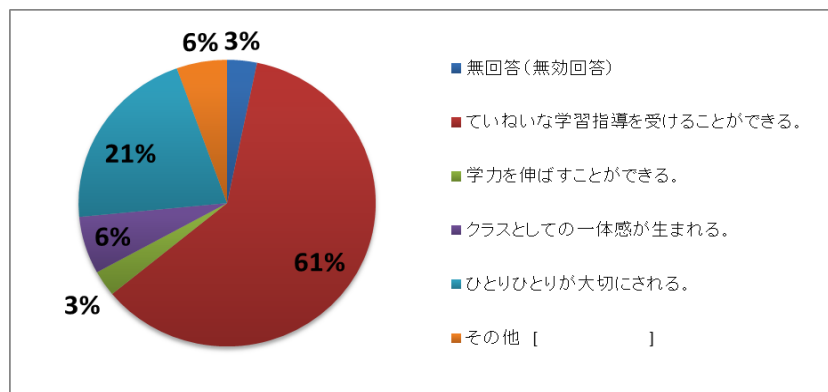


「1学級あたり21～30人」が望ましいとの回答が保護者で53%、教職員で66%と最も多い。次いで「1学級あたり31～35人」が望ましいとの回答が多く保護者で35%、教職員で24%であった。

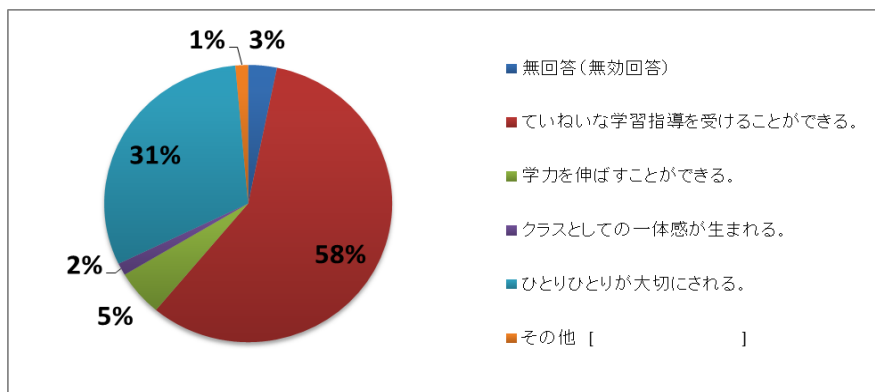
- ② 学級人数について（２） （保護者用アンケート設問３－２、教職員用アンケート設問２－２）
 問 ２．①で「１学級あたり２０人以下」または「１学級あたり２１人～３０人」と答えられた方は、
 そう思われる理由を１つお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	20	3.2	9	3.2
ていねいな学習指導を受けることができる。	376	60.8	162	57.9
学力を伸ばすことができる。	18	2.9	15	5.4
クラスとしての一体感が生まれる。	40	6.5	4	1.4
ひとりひとりが大切にされる。	130	21.0	86	30.7
その他 []	34	5.5	4	1.4
合計	618	100	280	100

～保護者回答～



～教職員回答～

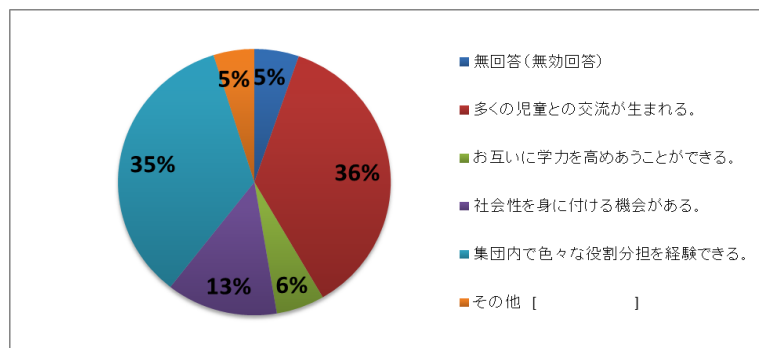


「１学級あたり２１～３０人」以下の規模が望ましいと回答した回答者がそう思われた理由は、
 「ていねいな学習指導を受けることができる。」が最も多く保護者６１％、教職員５８％であり、
 次いで「ひとりひとりが大切にされる。」との回答が多く保護者で２１％、教職員で３１％であった。

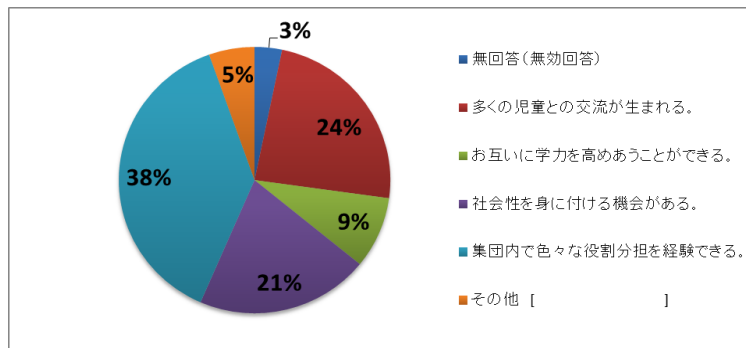
- ③ 学級人数について（３） （保護者用アンケート設問３－３、教職員用アンケート設問２－３）
 問 ２. ①で「１学級あたり31～35人」、「１学級あたり36人～40人」、「１学級あたり41人以上」と答えられた方は、そう思われる理由を１つお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	24	5.3	3	3.3
多くの児童との交流が生まれる。	165	36.3	22	23.9
お互いに学力を高めあうことができる。	26	5.7	8	8.7
社会性を身に付ける機会がある。	60	13.2	19	20.7
集団内で色々な役割分担を経験できる。	157	34.6	35	38.0
その他 []	22	4.8	5	5.4
合計	454	100	92	100

～保護者回答～



～教職員回答～

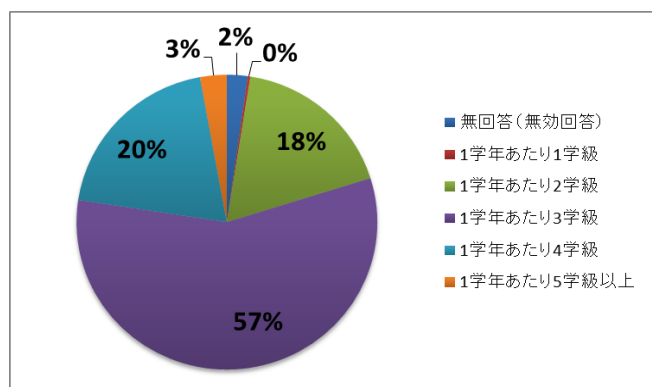


「１学級あたり31～35人」以上の規模が望ましい回答した回答者がそう思われた理由は、保護者では「多くの児童との交流が生まれる。」「集団内でいろいろな役割分担を経験できる。」がそれぞれ36%、35%と多かった。一方、教職員による回答では、「集団内でいろいろな役割分担を経験できる。」が38%と最も多く、次いで「多くの児童との交流が生まれる。」や「社会性を身に付ける機会がある。」などの回答が多かった。

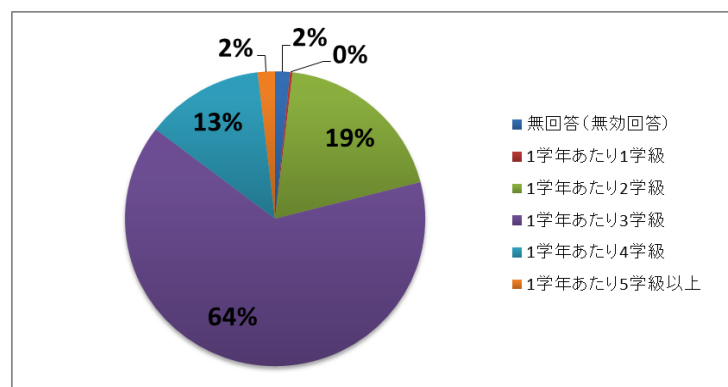
- ④ 学級数について（１） （保護者用アンケート設問４、教職員用アンケート設問３）
 問 小学校の学級数は、法令によると「１学年あたり２～３学級（１学校あたり１２～１８学級）を標準とする」となっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われますか？

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	24	2.2	6	1.6
１学年あたり１学級	3	0.3	1	0.3
１学年あたり２学級	191	17.7	72	19.1
１学年あたり３学級	618	57.2	242	64.4
１学年あたり４学級	213	19.7	48	12.8
１学年あたり５学級以上	31	2.9	7	1.9
合計	1,080	100	376	100

～保護者回答～



～教職員回答～



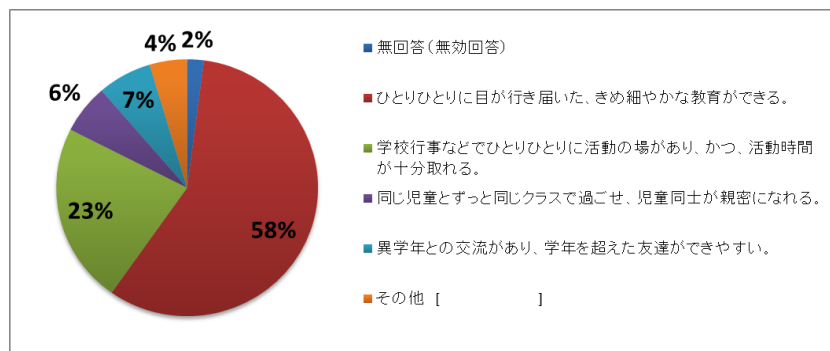
保護者・教職員とも「１学年あたり３学級」が保護者で５７％、教職員で６４％と一番多かった。次いで保護者では、「１学年あたり４学級」が２０％、「１学年あたり２学級」が１８％となり、教職員では「１学年あたり２学級」が１９％、「１学年あたり４学級」が１３％となった。

⑤ 学級数について（２） （保護者用アンケート設問４－２、教職員用アンケート設問３－２）

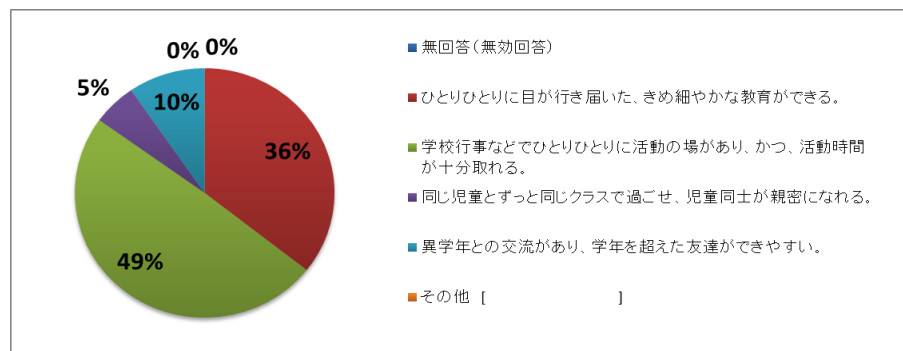
問 ２．④で「１学年あたり１学級」または「１学年あたり２学級」と答えられた方は、そう思われる理由を１つお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	4	2.1	0	0
ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる。	112	57.7	26	35.6
学校行事などでひとりひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる。	44	22.7	36	49.3
同じ児童とずっと同じクラスで過ごせ、児童同士が親密になれる。	12	6.2	4	5.5
異学年との交流があり、学年を超えた友達ができやすい。	13	6.7	7	9.6
その他 []	9	4.6	0	0
合計	194	100	73	100

～保護者回答～



～教職員回答～



保護者では「ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる。」が最も多く58%となり、次いで「学校行事などでひとりひとりに活躍の場があり、かつ、活動時間が十分に取れる。」が23%と多い結果となった。

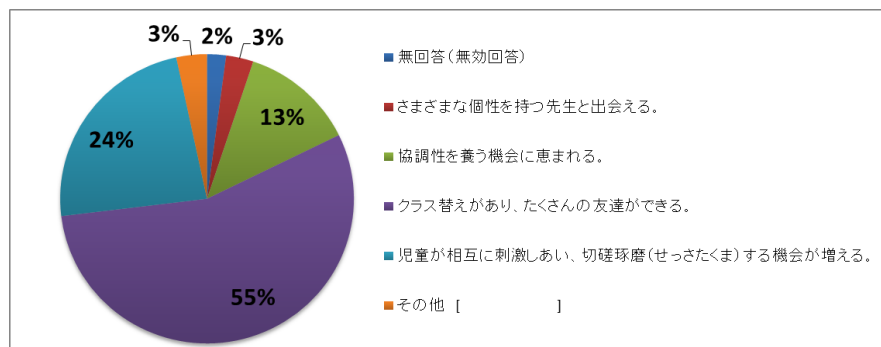
一方、教職員では「学校行事などでひとりひとりに活躍の場があり、かつ、活動時間が十分に取れる。」との回答が49%で一番多く、「ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる。」が36%で二番目に多い結果となった。

⑥ 学級数について（３） （保護者用アンケート設問４－３、教職員用アンケート設問３－３）

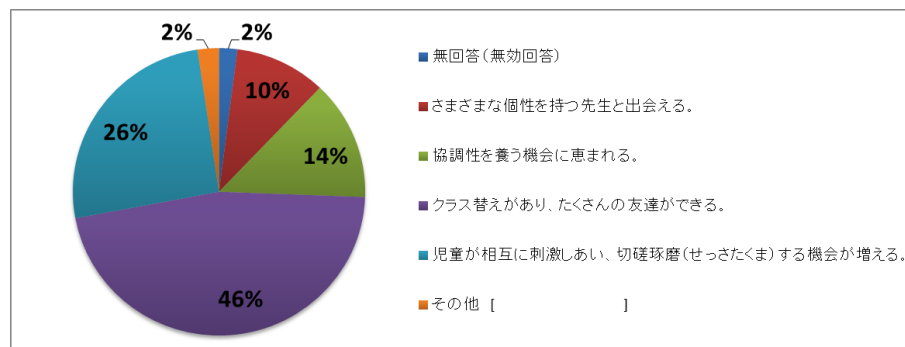
問 ２．④で「１学年あたり３学級」、「１学年あたり４学級」、「１学年あたり５学級以上」と答えられた方は、
 そう思われる理由を１つお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	18	2.1	6	2.0
さまざまな個性を持つ先生と出会える。	26	3.0	30	10.1
協調性を養う機会に恵まれる。	109	12.6	40	13.5
クラス替えがあり、たくさんの友達ができる。	477	55.3	138	46.5
児童が相互に刺激しあい、切磋琢磨（せっさたくま）する機会が増える。	203	23.5	76	25.6
その他 []	29	3.4	7	2.4
合計	862	100	297	100

～保護者回答～



～教職員回答～



保護者・教職員とも「クラス替えがあり、たくさんの友達ができる。」との回答が保護者55%、教職員46%と最も多かった。
 次いで「児童が相互に刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える。」が保護者24%、教職員26%と多かった。

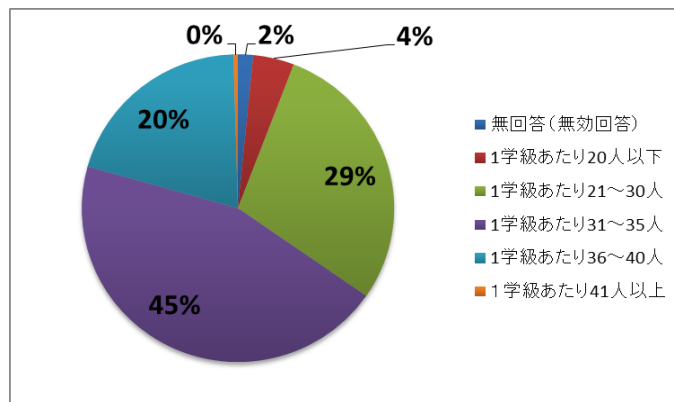
3. 中学校の規模について

① 学級人数について（１）（保護者用アンケート設問５、教職員用アンケート設問４）

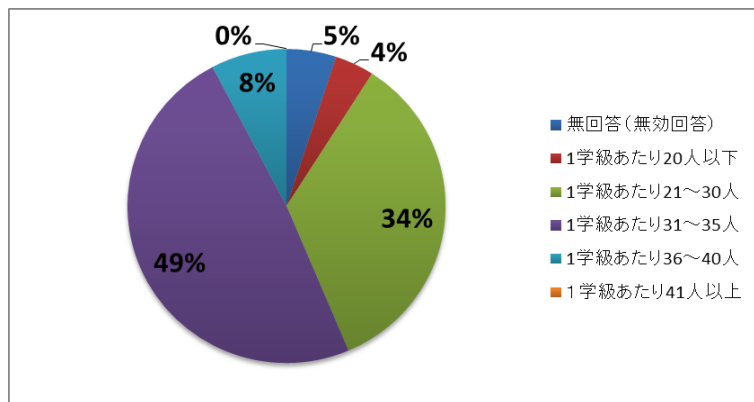
問 中学校の児生徒数は、法令によると「１学級４０人を標準とする」となっていますが、どの程度の学級人数が望ましいと思われますか？１つお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	17	1.6	19	5.1
1学級あたり20人以下	46	4.3	15	4.0
1学級あたり21～30人	311	28.8	130	34.6
1学級あたり31～35人	483	44.7	183	48.7
1学級あたり36～40人	218	20.2	29	7.7
1学級あたり41人以上	5	0.5	0	0.0
合計	1,080	100	376	100

～保護者回答～



～教職員回答～



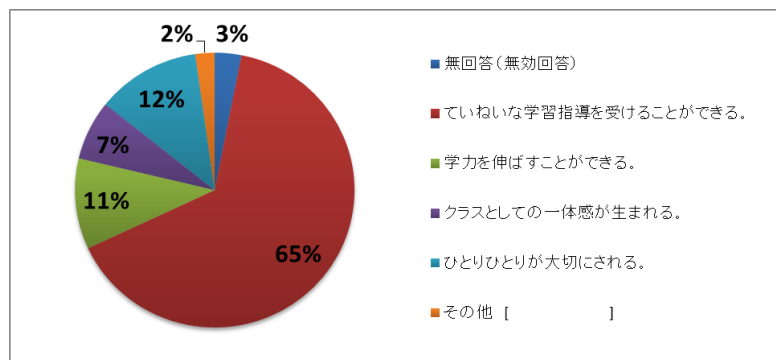
「1学級あたり31～35人」との回答が最も多く保護者で45%、教職員で49%、次いで「1学級あたり21～30人」が保護者29%、教職員34%と2番目に多かった。

「1学級あたり36～40人」については保護者では20%であるが、教職員では8%であった。

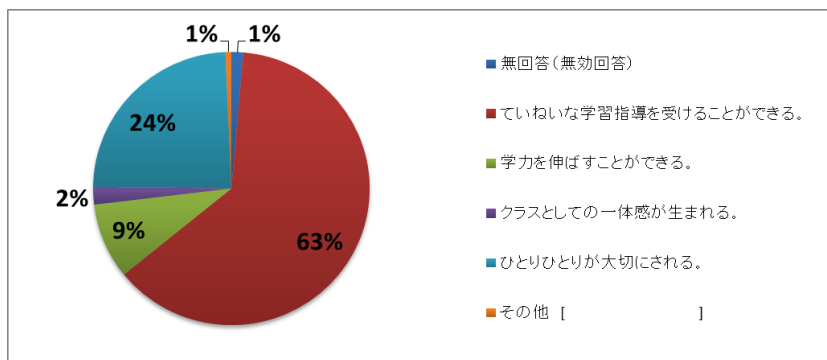
- ② 学級人数について(2) (保護者用アンケート設問5-2、教職員用アンケート設問4-2)
 問 3. ①で「1学級あたり20人以下」または「1学級あたり21～30人」と答えられた方は、
 そう思われる理由を1つお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答(無効回答)	11	3.1	2	1.4
ていねいな学習指導を受けることができる。	232	65.0	91	62.8
学力を伸ばすことができる。	38	10.6	13	9.0
クラスとしての一体感が生まれる。	25	7.0	3	2.1
ひとりひとりが大切にされる。	43	12.0	35	24.1
その他 []	8	2.2	1	0.7
合計	357	100	145	100

～保護者回答～



～教職員回答～



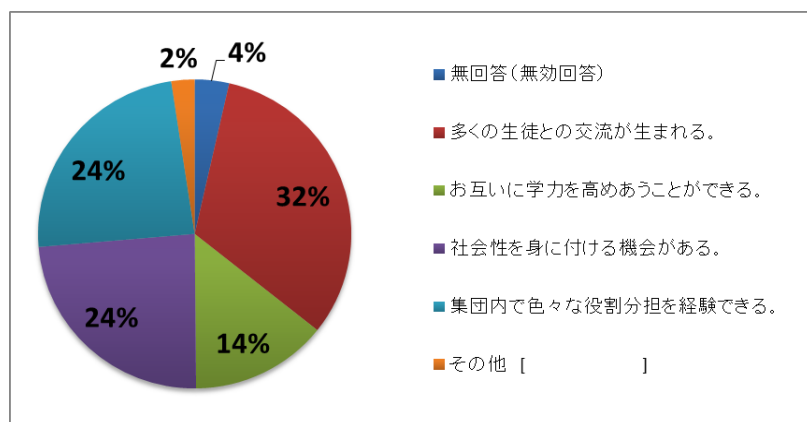
「ていねいな学習指導を受けることができる。」が最多の回答で保護者65%、教職員63%であった。
 2番目に多い回答は「ひとりひとりが大切にされる。」で、保護者12%、教職員24%であった。

③ 学級人数について（３） （保護者用アンケート設問５－３、教職員用アンケート設問４－３）

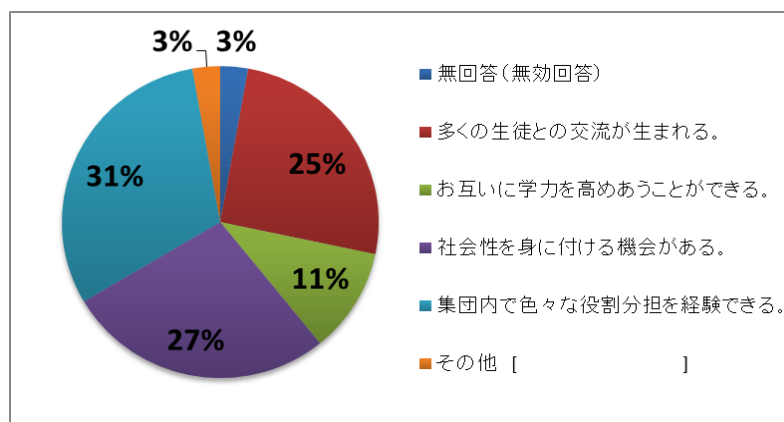
問 ３. ①で「１学級あたり３１～３５人」、「１学級あたり３６人～４０人」、「１学級あたり４１人以上」と答えられた方は、
 そう思われる理由を１つお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	25	3.5	6	2.8
多くの生徒との交流が生まれる。	227	32.2	54	25.5
お互いに学力を高めあうことができる。	100	14.2	23	10.8
社会性を身に付ける機会がある。	168	23.8	58	27.4
集団内で色々な役割分担を経験できる。	169	23.9	65	30.7
その他 []	17	2.4	6	2.8
合計	706	100	212	100

～保護者回答～



～教職員回答～



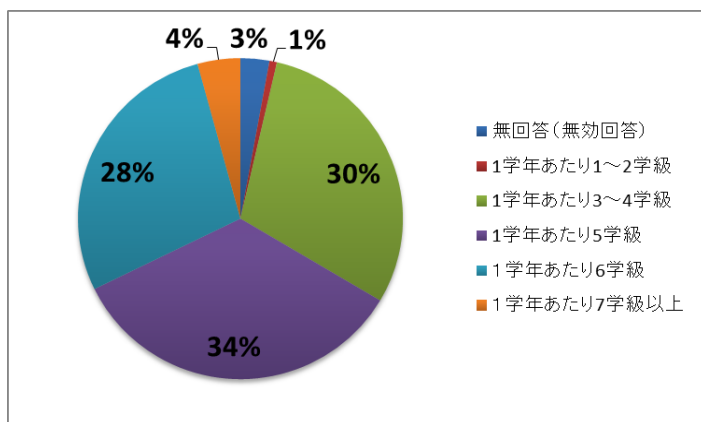
保護者、教職員とも特に回答比率の高いものではなく、「多くの生徒との交流が生まれる。」「社会性を身に付ける機会がある。」「集団内で色々な役割分担を経験できる。」との回答が24%～32%で多かった。

④ 学級数について（１） （保護者用アンケート設問６、教職員用アンケート設問５）

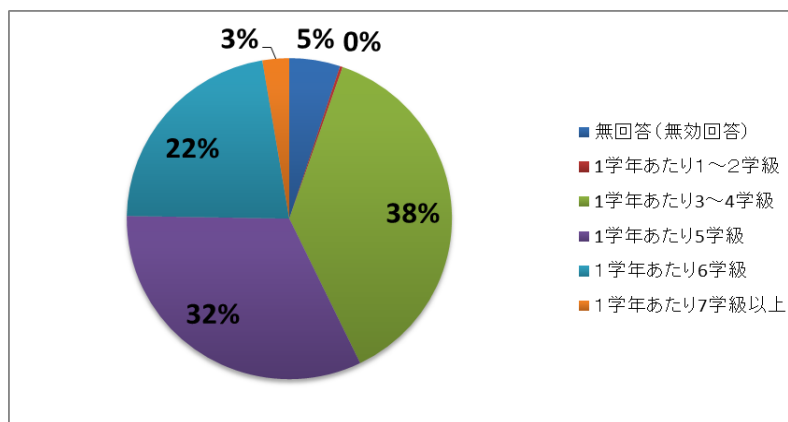
問 中学校の学級数は、法令によると「１学年あたり４～６学級（１学校あたり１２～１８学級）を標準とする」となっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われますか？

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	31	2.9	19	5.1
１学年あたり１～２学級	8	0.7	1	0.3
１学年あたり３～４学級	323	29.9	141	37.5
１学年あたり５学級	370	34.3	122	32.4
１学年あたり６学級	302	28.0	83	22.1
１学年あたり７学級以上	46	4.3	10	2.7
合計	1,080	100	376	100

～保護者回答～



～教職員回答～



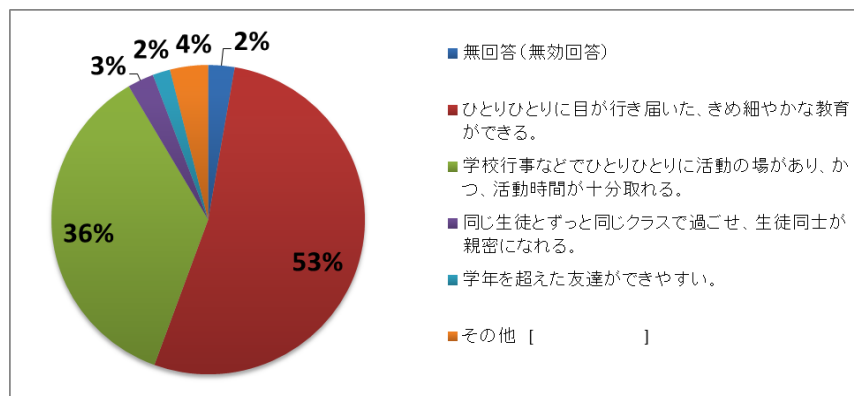
「１学年あたり３～４学級」「１学年あたり５学級」が保護者・教職員とも３０％以上の回答で「１学年あたり６学級」が保護者で２８％、教職員で２２％であった。

⑤ 学級数について（２） （保護者用アンケート設問６－２、教職員用アンケート設問５－２）

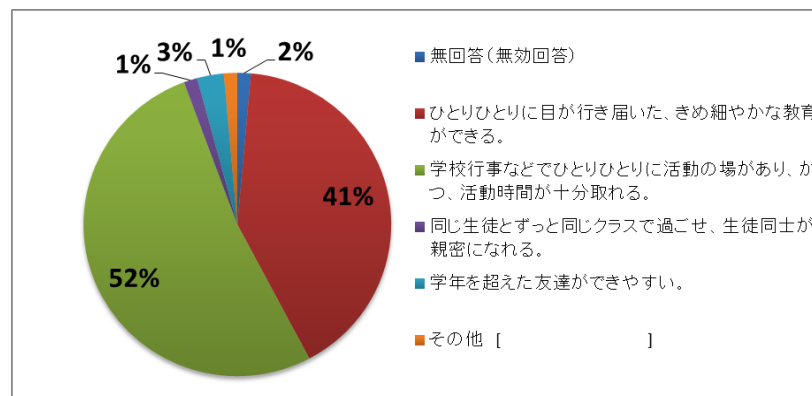
問 ３. ④で「１学年あたり１～２学級」または「１学年あたり３～４学級」と答えられた方は、
 そう思われる理由を１つお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	9	2.7	2	1.4
ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる。	175	52.9	58	40.8
学校行事などでひとりひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる。	119	36.0	74	52.1
同じ生徒とずっと同じクラスで過ごせ、生徒同士が親密になれる。	9	2.7	2	1.4
学年を超えた友達ができやすい。	6	1.8	4	2.8
その他 []	13	3.9	2	1.4
合計	331	100	142	100

～保護者回答～



～教職員回答～



概ね小学校での設問２. ⑤と同様の傾向になっている。

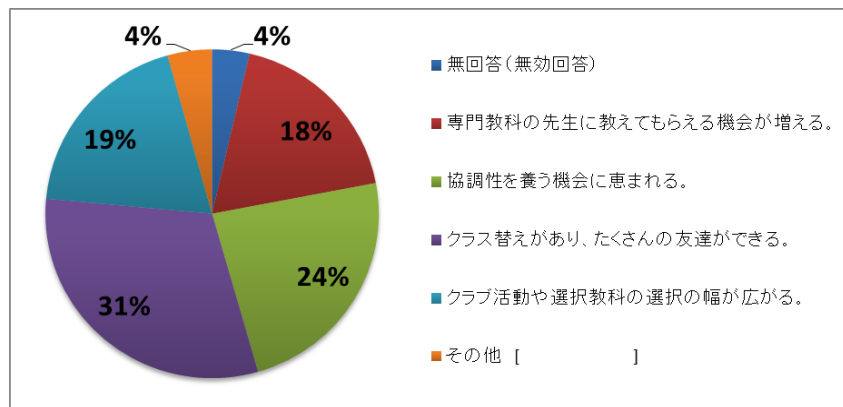
保護者では「ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる。」が53%と最も多く、
 次いで、「学校行事などでひとりひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる。」が36%となった。
 一方、教職員回答では「学校行事などでひとりひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる。」が52%と
 最も多い回答であり、「ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる。」が41%で２番目に多かった。

⑥ 学級数について（３） （保護者用アンケート設問６－３、教職員用アンケート設問５－３）

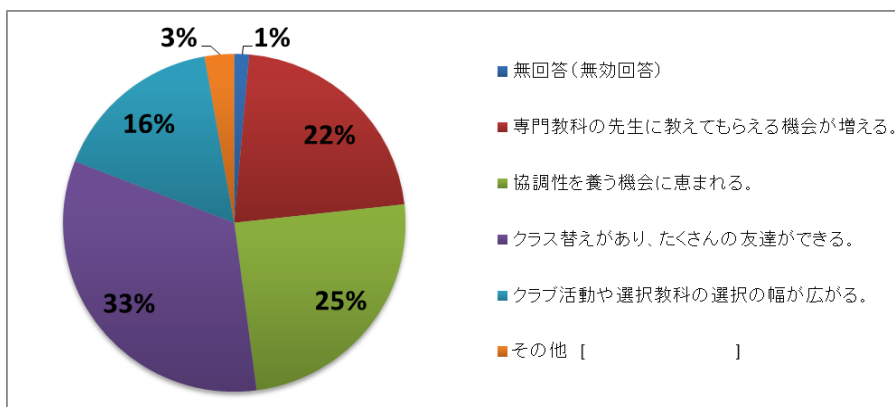
問 ３. ④で「１学年あたり５学級」、「１学年あたり６学級」、「１学年あたり７学級以上」と答えられた方は、
 そう思われる理由を１つお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	26	3.6	3	1.4
専門教科の先生に教えてもらえる機会が増える。	132	18.4	47	21.9
協調性を養う機会に恵まれる。	169	23.5	53	24.7
クラス替えがあり、たくさんの友達ができる。	222	30.9	71	33.0
クラブ活動や選択教科の選択の幅が広がる。	138	19.2	35	16.3
その他 []	31	4.3	6	2.8
合計	718	100	215	100

～保護者回答～



～教職員回答～



保護者、教職員とも「クラス替えがあり、たくさんの友達ができる。」との回答が最も多く保護者で31%、教職員で33%であった。次いで「協調性を養う機会に恵まれる。」が保護者24%、教職員25%で多かったが、「専門教科の先生に教えてもらえる機会が増える。」「クラブ活動や選択教科の選択の幅が広がる。」も16～22%であった。

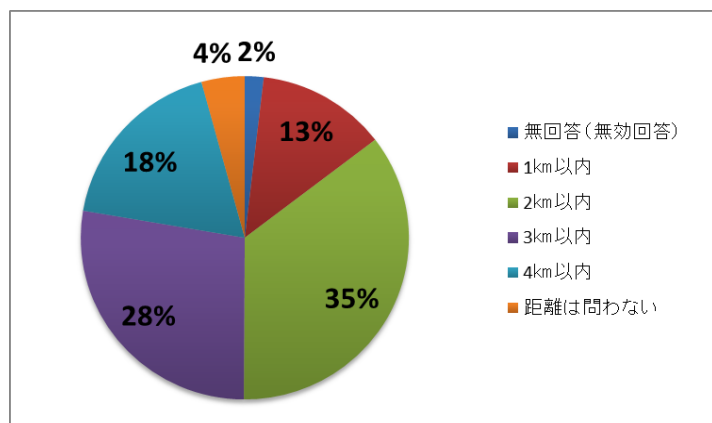
4. 通学距離について

① 小学校の通学距離について（保護者用アンケート設問7、教職員用アンケート設問6）

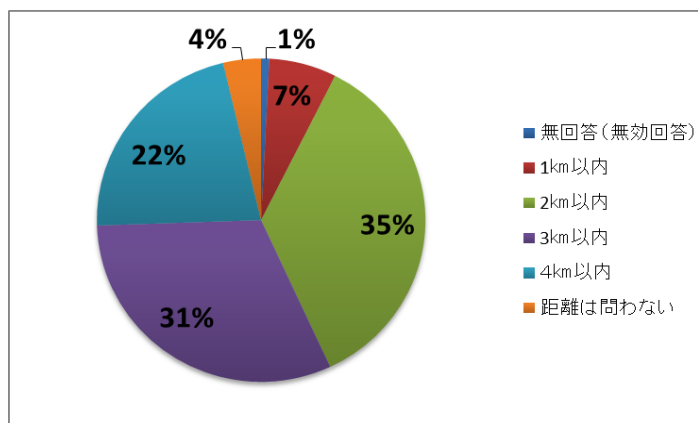
問 小学校の通学距離は、法令によると「おおむね4キロメートル以内であること」となっていますが、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか？1つお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	20	1.9	3	0.8
1km以内	138	12.8	25	6.6
2km以内	383	35.5	134	35.6
3km以内	298	27.6	118	31.4
4km以内	195	18.1	82	21.8
距離は問わない	46	4.3	14	3.7
合計	1,080	100	376	100

～保護者回答～



～教職員回答～



保護者、教職員とも「2km以内」「3km以内」「4km以内」の順で回答が多く、保護者ではそれぞれ35%、28%、18%であり、教職員では35%、31%、22%であった。

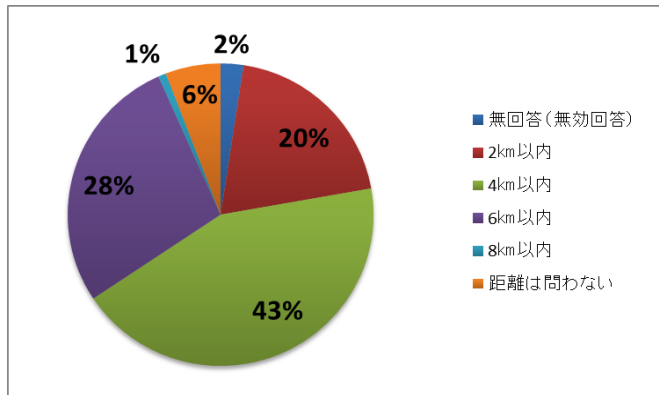
「1km以内」は保護者で13%、教職員で7%であった。

② 中学校の通学距離について（保護者用アンケート設問8、教職員用アンケート設問7）

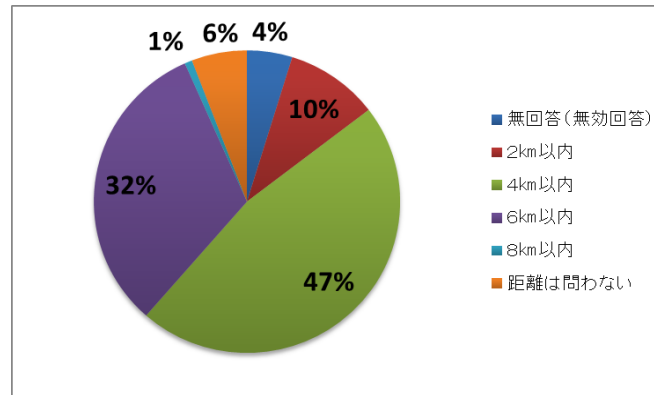
問 中学校の通学距離は、法令によると「おおむね6キロメートル以内であること」となっていますが、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか？1つお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	26	2.4	18	4.8
2km以内	214	19.8	37	9.8
4km以内	469	43.4	176	46.8
6km以内	299	27.7	120	31.9
8km以内	9	0.8	3	0.8
距離は問わない	63	5.8	22	5.9
合計	1,080	100	376	100

～保護者回答～



～教職員回答～



保護者、教職員とも「4km以内」「6km以内」「2km以内」の順で多く、保護者ではそれぞれ43%、28%、20%であり、教職員では47%、32%、10%であった。

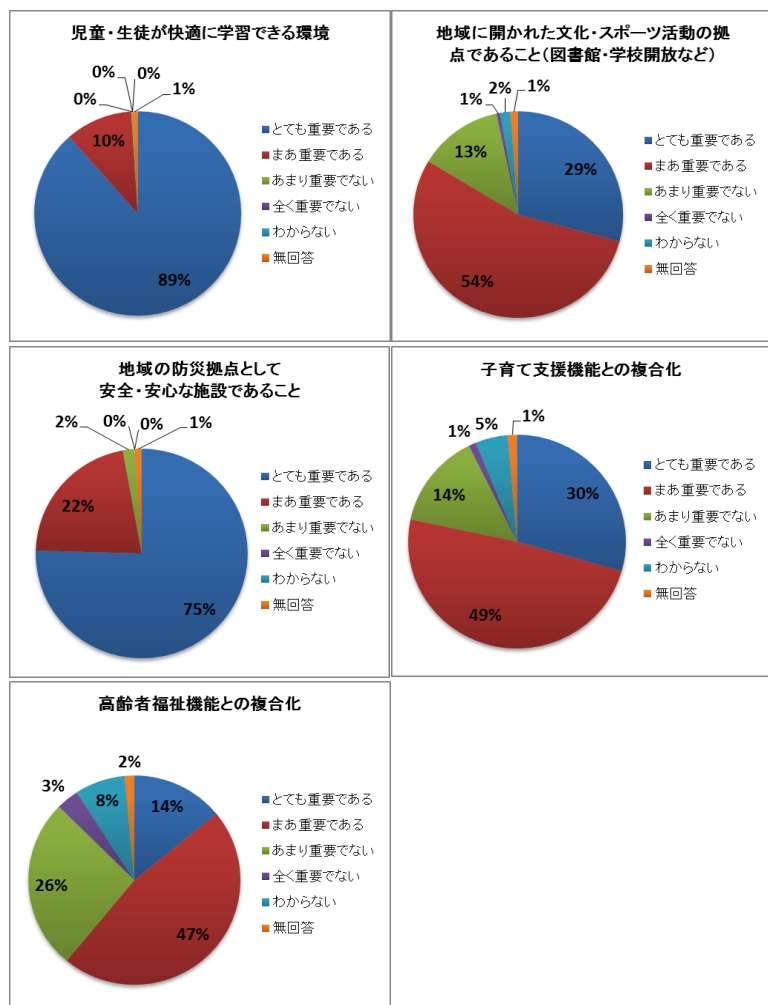
5. 教育環境の整備について

- ① これからの小中学校に期待する役割・機能について（保護者用アンケート設問9、教職員用アンケート設問8）
- 問 交野市立の小・中学校は、本市の保有する公共施設の過半を占めていることや、各地域に配置されていることから、地域コミュニティの中心としての役割が今後ますます大きくなることも考えられます。そこで、これからの学校に期待する役割・機能①～⑤について、あなたのお考えに近いものの数字を1つ〇で囲んでください。

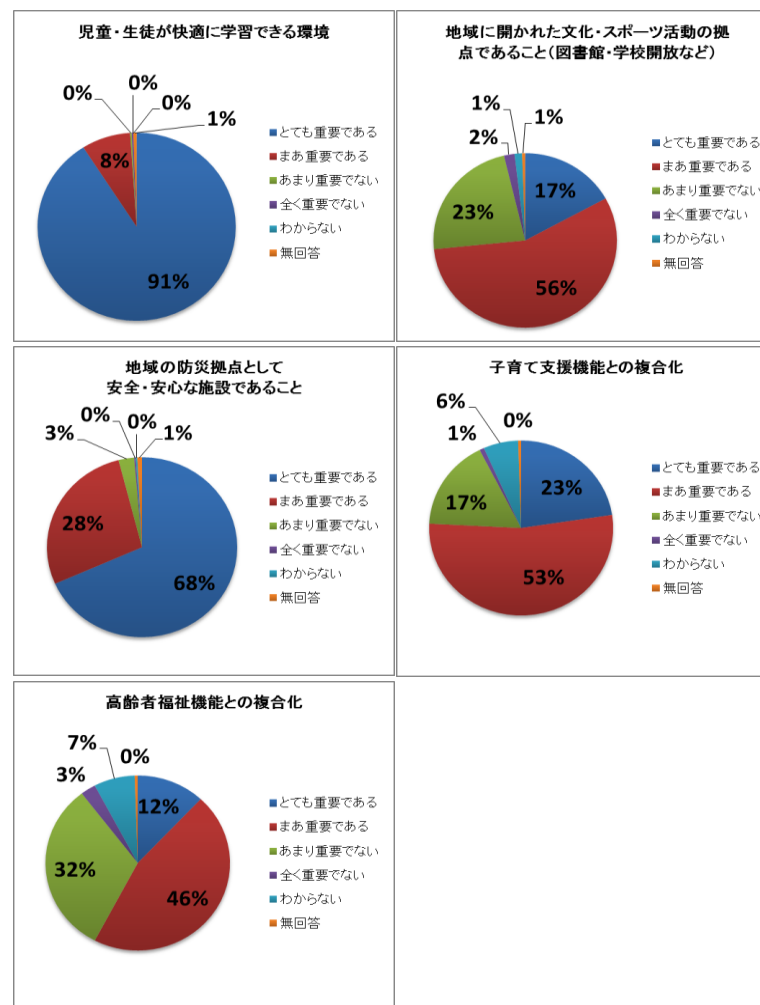
	保護者											
	回答者数						回答比率（％）					
	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答
児童・生徒が快適に学習できる環境	956	113	2	0	0	9	88.5	10.5	0.2	0	0	0.8
地域に開かれた文化・スポーツ活動の拠点であること（図書館・学校開放など）	315	588	141	6	17	13	29.2	54.4	13.1	0.6	1.6	1.2
地域の防災拠点として安全・安心な施設であること	815	234	19	0	0	12	75.5	21.7	1.8	0	0	1.1
子育て支援機能との複合化	318	528	155	12	52	15	29.4	48.9	14.4	1.1	4.8	1.4
高齢者福祉機能との複合化	152	507	285	37	83	16	14.1	46.9	26.4	3.4	7.7	1.5

	教職員											
	回答者数						回答比率（％）					
	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答
児童・生徒が快適に学習できる環境	342	30	1	1	0	2	91.0	8.0	0.3	0.3	0	0.5
地域に開かれた文化・スポーツ活動の拠点であること（図書館・学校開放など）	64	212	86	7	5	2	17.0	56.4	22.9	1.9	1.3	0.5
地域の防災拠点として安全・安心な施設であること	257	104	10	1	1	3	68.4	27.7	2.7	0.3	0.3	0.8
子育て支援機能との複合化	85	200	63	3	23	2	22.6	53.2	16.8	0.8	6.1	0.5
高齢者福祉機能との複合化	45	172	120	10	27	2	12.0	45.7	31.9	2.7	7.2	0.5

～保護者回答～



～教職員回答～



これからの学校に期待する役割・機能としては、保護者・教職員とも「児童・生徒が快適に学習できる環境」が「とても重要である」「まあ重要である」を合わせると99%、「地域の防災拠点として安全・安心な施設であること」が97%であった。また、「地域に開かれた文化・スポーツ活動の拠点であること(図書館・学校開放など)」は、「とても重要である」「まあ重要である」を合わせて、保護者で83%、教職員で73%であった。「子育て支援機能との複合化」については、「とても重要である」「まあ重要である」を合わせてそれぞれ、保護者79%、教職員76%となり、「高齢者福祉機能との複合化」では保護者61%、教職員58%であった。

② 学校の適正配置の進め方について（保護者用アンケート設問10、教職員用アンケート設問9）

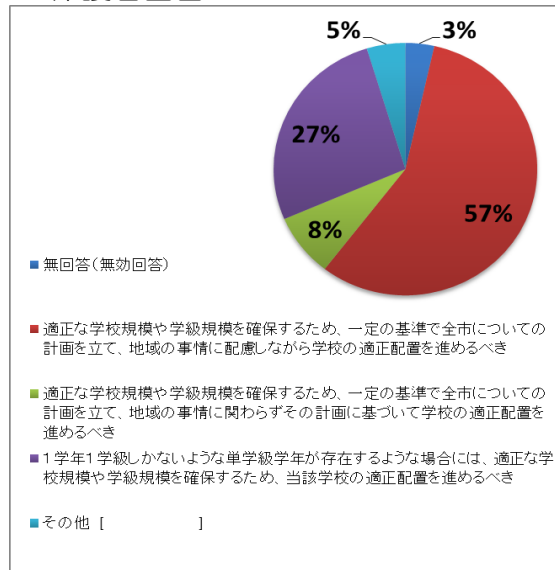
問 交野市立の小・中学校の児童・生徒数については、平成28年度時点でピーク時（昭和57年度）から約46%減少しており、さらに今後も減少する見込みとなっています。

すでに、クラス替えのできない学校もある中で、学校の再配置の検討が必要な時期を迎えているところですが、交野市として今後どのようにすることが望ましいと思いますか？

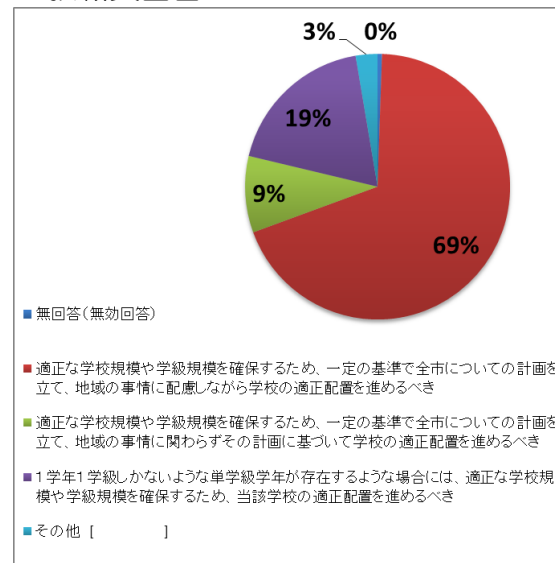
あなたのお考えに近いものを1つ選んでください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	38	3.5	2	0.5
適正な学校規模や学級規模を確保するため、一定の基準で全市についての計画を立て、地域の事情に配慮しながら学校の適正配置を進めるべき	615	56.9	259	68.9
適正な学校規模や学級規模を確保するため、一定の基準で全市についての計画を立て、地域の事情に関わらずその計画に基づいて学校の適正配置を進めるべき	87	8.1	35	9.3
1学年1学級しかないような単学級学年が存在するような場合には、適正な学校規模や学級規模を確保するため、当該学校の適正配置を進めるべき	289	26.8	70	18.6
その他 []	51	4.7	10	2.7
合計	1,080	100	376	100

～保護者回答～



～教職員回答～

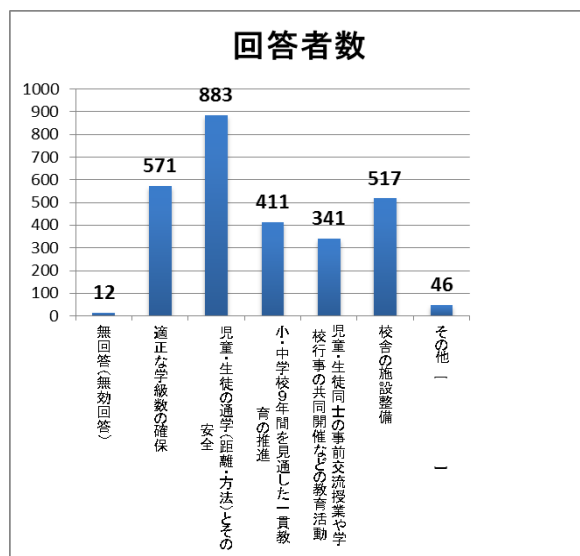


「適正な学校規模や学級規模を確保するため、一定に基準で全市についての計画を立て、地域の事情に配慮しながら学校の適正配置を進めるべき」が保護者57%、教職員69%と一番多く、次いで「1学年1学級しかないような単学級学年が存在するような場合には、適正な学校規模や学級規模を確保するため、当該学校の適正配置を進めるべき」が保護者27%、教職員19%であった。

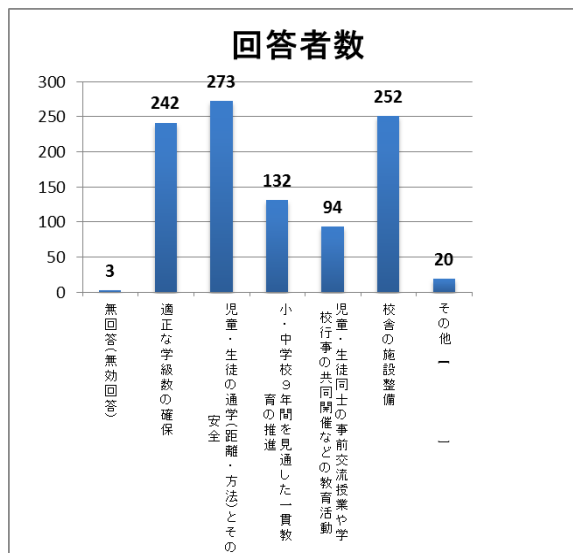
- ③ 学校規模適正化を進める上で配慮すべき点について （保護者用アンケート設問１１、教職員用アンケート設問１０）
問 学校の規模適正化等を進めるうえで、配慮すべき点だと思われるものを３つ選んでお答えください。

	保護者		教職員	
	回答者数	回答率(%)	回答者数	回答率(%)
無回答（無効回答）	12	0.4	3	0.3
適正な学級数の確保	571	20.5	242	23.8
児童・生徒の通学（距離・方法）とその安全	883	31.8	273	26.9
小・中学校９年間を見通した一貫教育の推進	411	14.8	132	13.0
児童・生徒同士の事前交流授業や学校行事の共同開催などの教育活動	341	12.3	94	9.3
校舎の施設整備	517	18.6	252	24.8
その他 []	46	1.7	20	2.0
合計	2,781	100	1,016	100

～保護者回答～



～教職員回答～



「児童・生徒の通学（距離・方法）とその安全」が保護者32%、教職員27%で最も多かった。
「適正な学級数の確保」は保護者21%、教職員24%であり、「校舎の施設整備」は保護者19%、教職員25%であった。

Ⅲ. アンケート調査のクロス集計結果

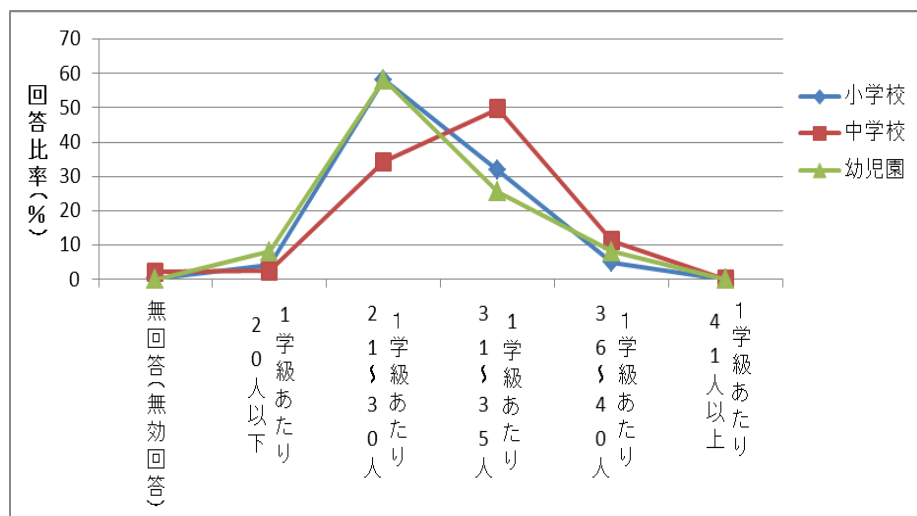
1. 小学校の規模について

(1) 学級人数について (保護者用アンケート設問3)

問 小学校の児童数は、法令によると「1学級40人を標準とする」となっていますが、どの程度の学級人数が望ましいと思われますか？1つお答えください。

① 「小学校保護者」「中学校保護者」「幼稚園保護者」の対比による集計

	回答者			回答比率(%)		
	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	幼稚園
無回答(無効回答)	3	5	0	0.4	2.1	0
1学級あたり20人以下	33	6	7	4.4	2.5	8.1
1学級あたり21～30人	440	82	50	58.3	34.3	58.1
1学級あたり31～35人	241	119	22	31.9	49.8	25.6
1学級あたり36～40人	38	27	7	5.0	11.3	8.1
1学級あたり41人以上	0	0	0	0	0	0
合計	755	239	86	100	100	100

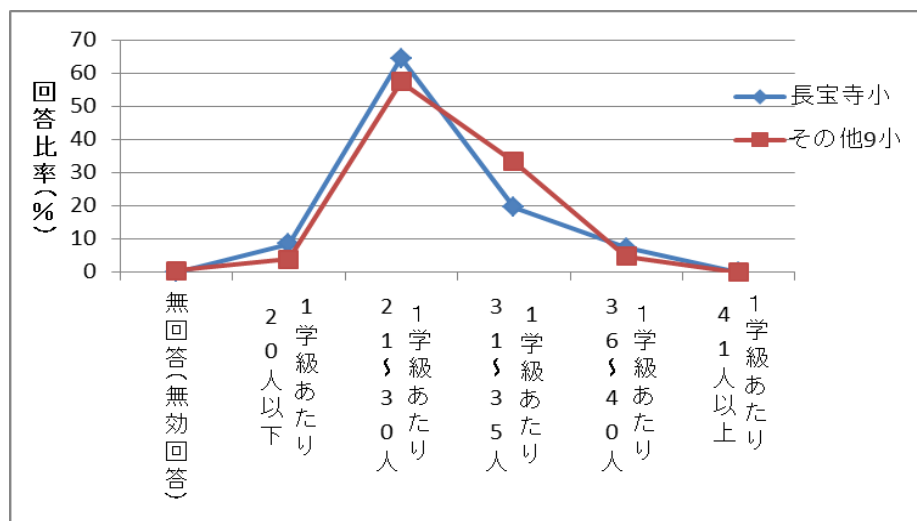


小学校保護者、幼稚園保護者では、「1学級あたり21～30人」との回答が最も多かったが中学校保護者では、「1学級あたり31～35人」との最も回答が多かった。小学校保護者、中学校保護者、幼稚園保護者とも、「1学級あたり21～30人」「1学級あたり31～35人」が望ましいとの意見が全体の8割以上であった。

②「長宝寺小学校保護者」「長宝寺小学校を除く公立9小学校の保護者」の対比による集計

※以下「その他9小」とは「長宝寺小学校を除く公立9小学校」を指すものである。

	回答者		回答比率(%)	
	長宝寺小	その他9小	長宝寺小	その他9小
無回答(無効回答)	0	3	0	0.4
1学級あたり20人以下	7	26	8.5	3.9
1学級あたり21～30人	53	387	64.6	57.5
1学級あたり31～35人	16	225	19.5	33.4
1学級あたり36～40人	6	32	7.3	4.8
1学級あたり41人以上	0	0	0	0
合計	82	673	100	100



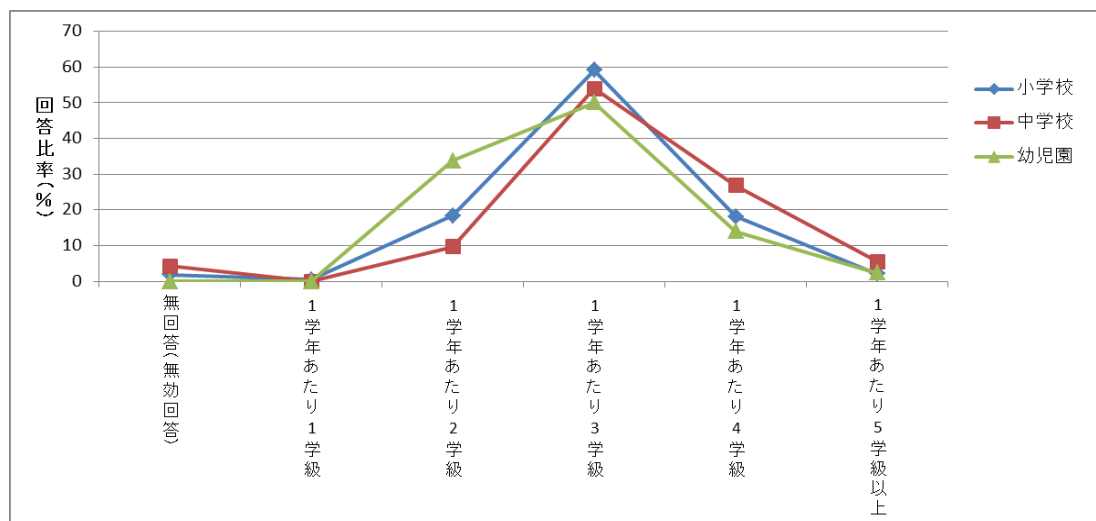
長宝寺小・その他9小とも「1学級あたり21～30人」が最も多く、次いで「1学級あたり31～35人」が多い結果となった。

(2)学級数について (保護者用アンケート設問4)

問 小学校の学級数は、法令によると「1学年あたり2～3学級（1学校あたり12～18学級）を標準とする」となっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われますか？

①「小学校保護者」「中学校保護者」「幼稚園保護者」の対比による集計

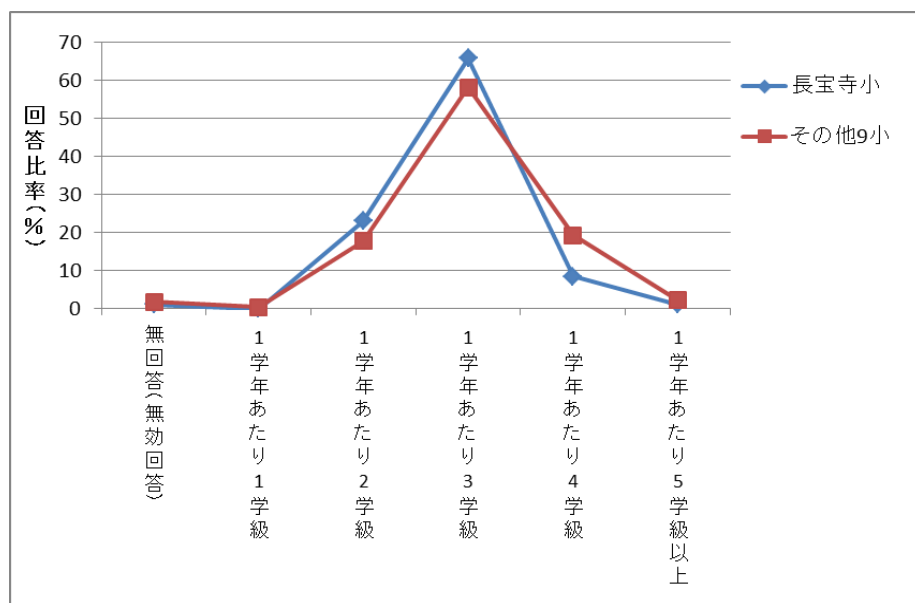
	回答者数			回答率(%)		
	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	幼稚園
無回答(無効回答)	14	10	0	1.9	4.2	0
1学年あたり1学級	3	0	0	0.4	0	0
1学年あたり2学級	139	23	29	18.4	9.6	33.7
1学年あたり3学級	446	129	43	59.1	54.0	50.0
1学年あたり4学級	137	64	12	18.1	26.8	14.0
1学年あたり5学級以上	16	13	2	2.1	5.4	2.3
合計	755	239	86	100	100	100



小学校・中学校・幼稚園すべての保護者で、「1学年あたり3学級」が望ましいとの回答が最も多く、全体の50%以上となった。幼稚園保護者では「1学年あたり2学級」が望ましいとの回答が小学校保護者、中学校保護者と比較して多い結果となった。「1学年あたり4学級」が望ましいと考える保護者は、中学校＞小学校＞幼稚園となった。

②「長宝寺小学校保護者」「長宝寺小学校を除く公立9小学校の保護者」の対比による集計

	回答者		回答比率(%)	
	長宝寺小	その他9小	長宝寺小	その他9小
無回答(無効回答)	1	13	1.2	1.9
1学年あたり1学級	0	3	0	0.4
1学年あたり2学級	19	120	23.2	17.8
1学年あたり3学級	54	392	65.9	58.2
1学年あたり4学級	7	130	8.5	19.3
1学年あたり5学級以上	1	15	1.2	2.2
合計	82	673	100	100



長宝寺小・その他9小の保護者とも「1学年あたり3学級」との意見が最も多く、次いで、「1学年あたり2学級」または「1学年あたり4学級」との結果となった。

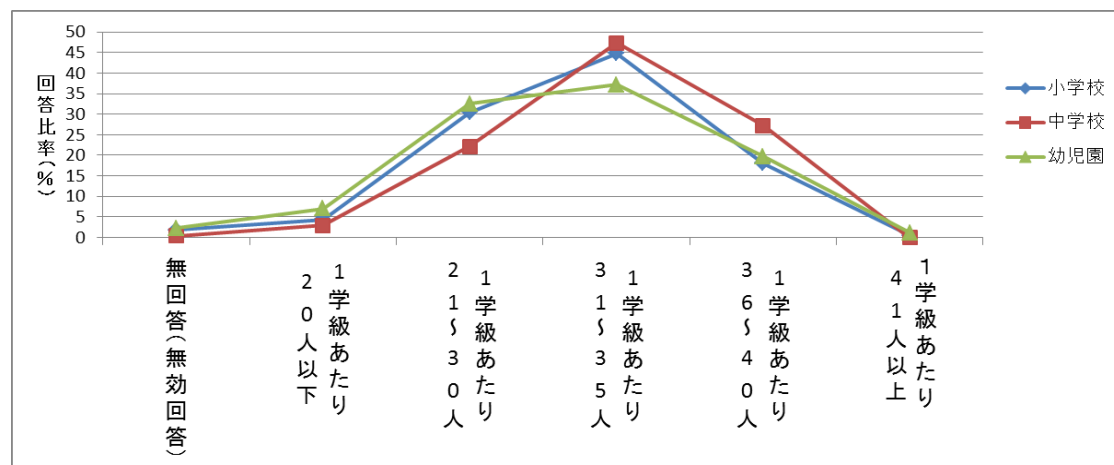
2. 中学校の規模について

(1) 学級人数について (保護者用アンケート設問5)

問 中学校の生徒数は、法令によると「1学級40人を標準とする」となっていますが、どの程度の学級人数が望ましいと思われますか？1つお答えください。

①「小学校保護者」「中学校保護者」「幼稚園保護者」の対比による集計

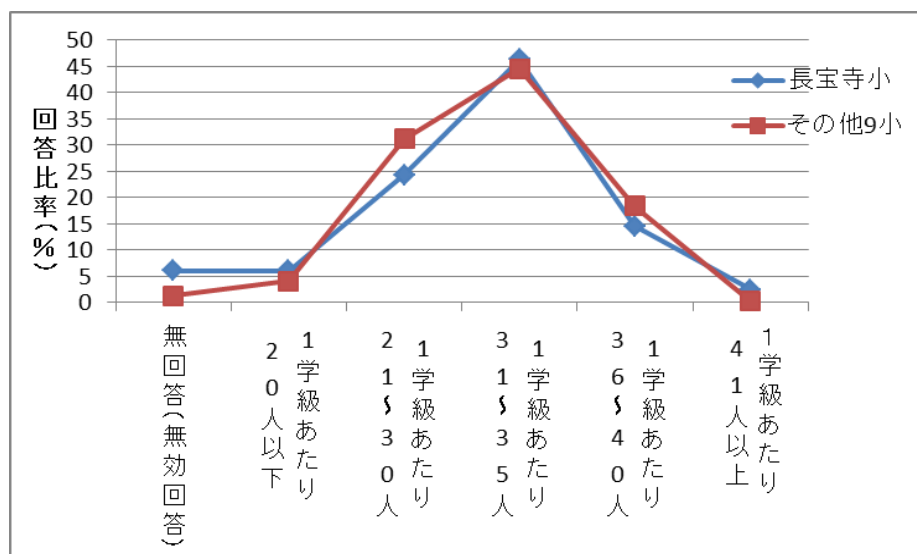
	回答者数			回答率(%)		
	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	幼稚園
無回答(無効回答)	14	1	2	1.9	0.4	2.3
1学級あたり20人以下	33	7	6	4.4	2.9	7.0
1学級あたり21～30人	230	53	28	30.5	22.2	32.6
1学級あたり31～35人	338	113	32	44.8	47.3	37.2
1学級あたり36～40人	136	65	17	18.0	27.2	19.8
1学級あたり41人以上	4	0	1	0.5	0	1.2
合計	755	239	86	100	100	100



小学校・中学校・幼稚園すべての保護者で、「1学級あたり31～35人」が望ましいとの回答が最も多かった。次いで、「1学級あたり21～30人」または「1学級あたり36～40人」との回答が多い結果となった。

②「長宝寺小学校保護者」「長宝寺小学校を除く公立9小学校の保護者」の対比による集計

	回答者		回答比率(%)	
	長宝寺小	その他9小	長宝寺小	その他9小
無回答(無効回答)	5	9	6.1	1.3
1学級あたり20人以下	5	28	6.1	4.2
1学級あたり21～30人	20	210	24.4	31.2
1学級あたり31～35人	38	300	46.3	44.6
1学級あたり36～40人	12	124	14.6	18.4
1学級あたり41人以上	2	2	2.4	0.3
合計	82	673	100	100



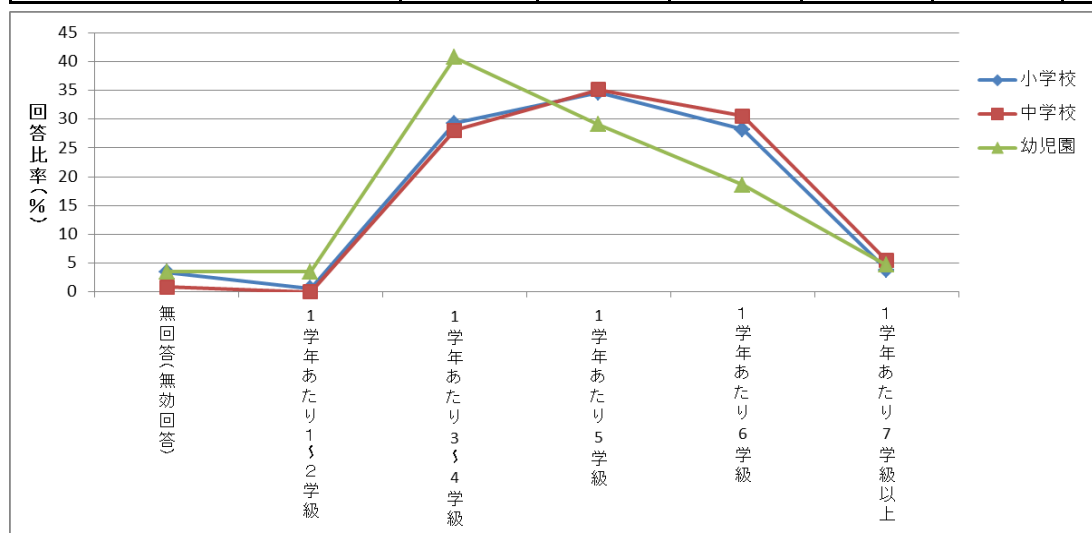
長宝寺小・その他9小の保護者とも「1学級あたり31～35人」が最も多い回答となった。
次いで「1学級あたり21～30人」、「1学級あたり36～40人」の順に回答が多い結果となった。

(2)学級数について (保護者用アンケート設問6)

問 中学校の学級数は、法令によると「1学年あたり4～6学級（1学校あたり12～18学級）を標準とする」となっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われますか？

①「小学校保護者」「中学校保護者」「幼稚園保護者」の対比による集計

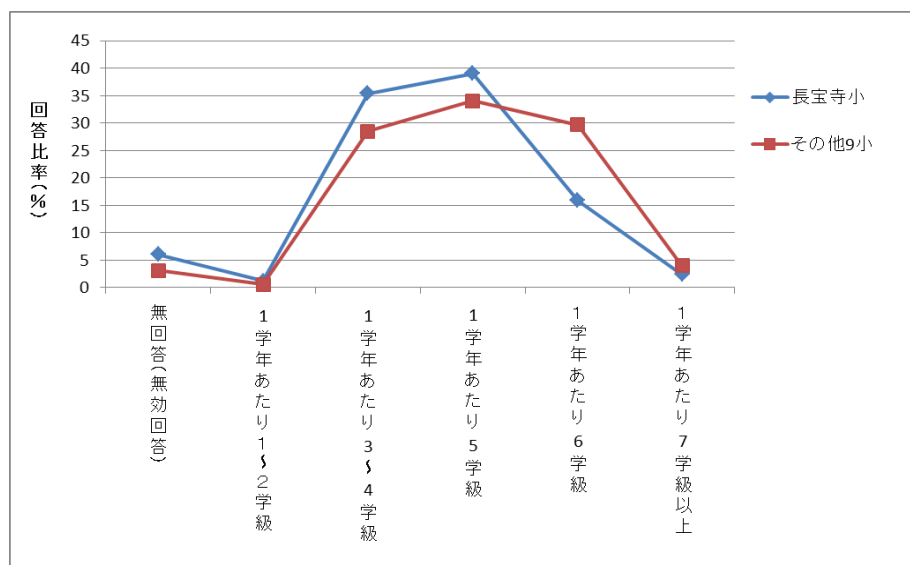
	回答者数			回答率(%)		
	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	幼稚園
無回答（無効回答）	26	2	3	3.4	0.8	3.5
1学年あたり1～2学級	5	0	3	0.7	0	3.5
1学年あたり3～4学級	221	67	35	29.3	28.0	40.7
1学年あたり5学級	261	84	25	34.6	35.1	29.1
1学年あたり6学級	213	73	16	28.2	30.5	18.6
1学年あたり7学級以上	29	13	4	3.8	5.4	4.7
合計	755	239	86	100	100	100



小学校・中学校の保護者では、概ね同じ回答比率となり、「1学年あたり5学級」が最も多かった。幼稚園保護者では、「1学年あたり3～4学級」が望ましいとの回答が多かった。小学校・中学校・幼稚園の保護者とも、回答の大部分は1学年あたり3～6学級の範囲であった。

②「長宝寺小学校保護者」「長宝寺小学校を除く公立9小学校の保護者」の対比による集計

	回答者		回答比率(%)	
	長宝寺小	その他9小	長宝寺小	その他9小
無回答(無効回答)	5	21	6.1	3.1
1学年あたり1～2学級	1	4	1.2	0.6
1学年あたり3～4学級	29	192	35.4	28.5
1学年あたり5学級	32	229	39.0	34.0
1学年あたり6学級	13	200	15.9	29.7
1学年あたり7学級以上	2	27	2.4	4.0
合計	82	673	100	100



長宝寺小・その他9小の保護者とも「1学年あたり5学級」との回答が最も多かった。
 長宝寺小保護者の方が、その他9小保護者と比べて、「1学年あたり3～4学級」「1学年あたり5学級」が望ましいとの回答が多く、「1学年あたり6学級」との回答は少ない結果となった。

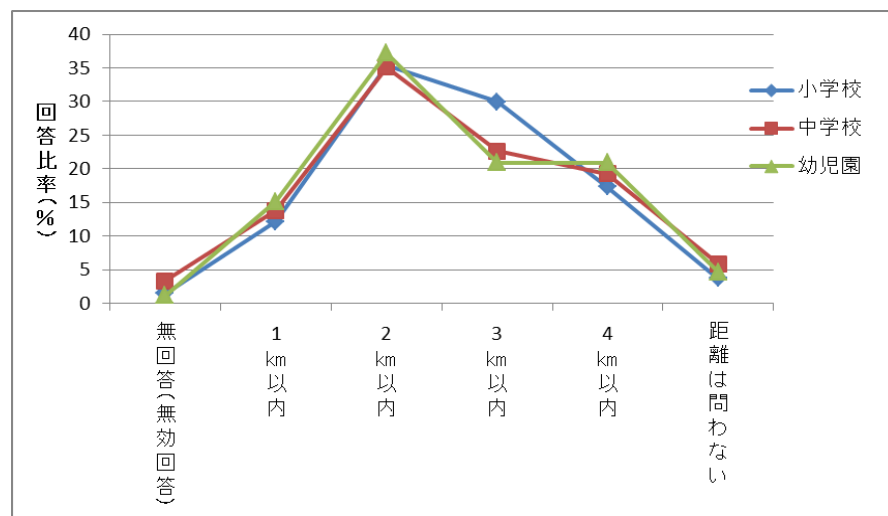
3. 通学距離について

(1) 小学校の通学距離について (保護者用アンケート設問7)

問 小学校の通学距離は、法令によると「おおむね4キロメートル以内であること」となっていますが、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか？1つお答えください。

①「小学校保護者」「中学校保護者」「幼稚園保護者」の対比による集計

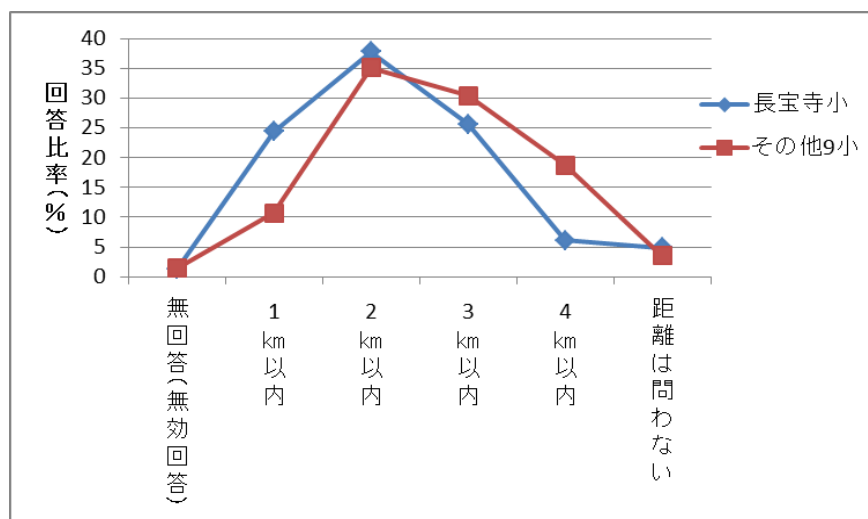
	回答者数			回答率(%)		
	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	幼稚園
無回答(無効回答)	11	8	1	1.5	3.3	1.2
1km以内	92	33	13	12.2	13.8	15.1
2km以内	267	84	32	35.4	35.1	37.2
3km以内	226	54	18	29.9	22.6	20.9
4km以内	131	46	18	17.4	19.2	20.9
距離は問わない	28	14	4	3.7	5.9	4.7
合計	755	239	86	100	100	100



小学校・中学校・幼稚園とも、「2km以内」との回答が最も多かった。
また、小学校保護者の回答は、中学校・幼稚園保護者の回答と比べると、「3km以内」が通学可能範囲との意見が多かった。

②「長宝寺小学校保護者」「長宝寺小学校を除く公立9小学校の保護者」の対比による集計

	回答者		回答比率(%)	
	長宝寺小	その他9小	長宝寺小	その他9小
無回答(無効回答)	1	10	1.2	1.5
1km以内	20	72	24.4	10.7
2km以内	31	236	37.8	35.1
3km以内	21	205	25.6	30.5
4km以内	5	126	6.1	18.7
距離は問わない	4	24	4.9	3.6
合計	82	673	100	100



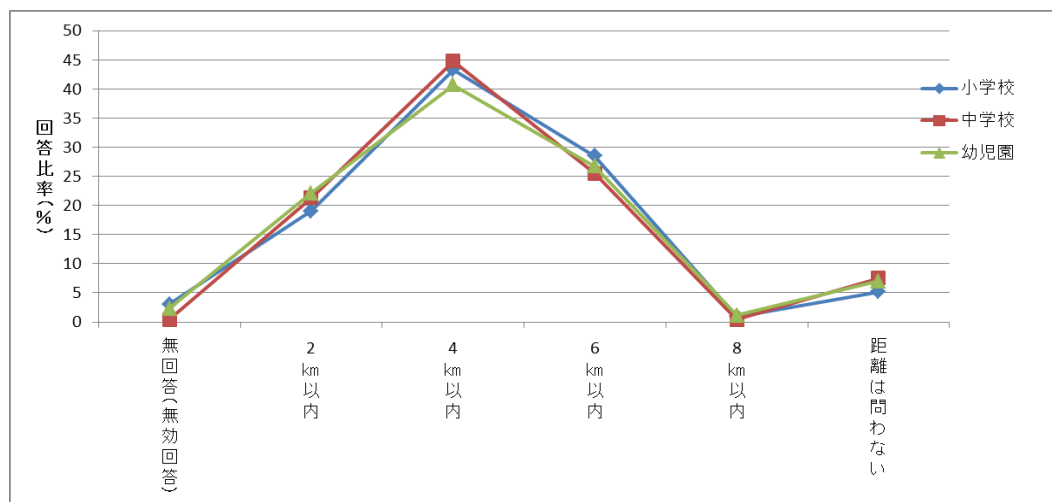
長宝寺小・その他9小の保護者とも「2km以内」との回答が最も多かった。
 長宝寺小保護者は、その他9小保護者と比べると「1km以内」との回答が2倍程度多く、
 「3km以内」との回答は少ない結果となった。

(2) 中学校の通学距離について (保護者用アンケート設問8)

問 中学校の通学距離は、法令によると「おおむね6キロメートル以内であること」となっていますが、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか？1つお答えください。

①「小学校保護者」「中学校保護者」「幼稚園保護者」の対比による集計

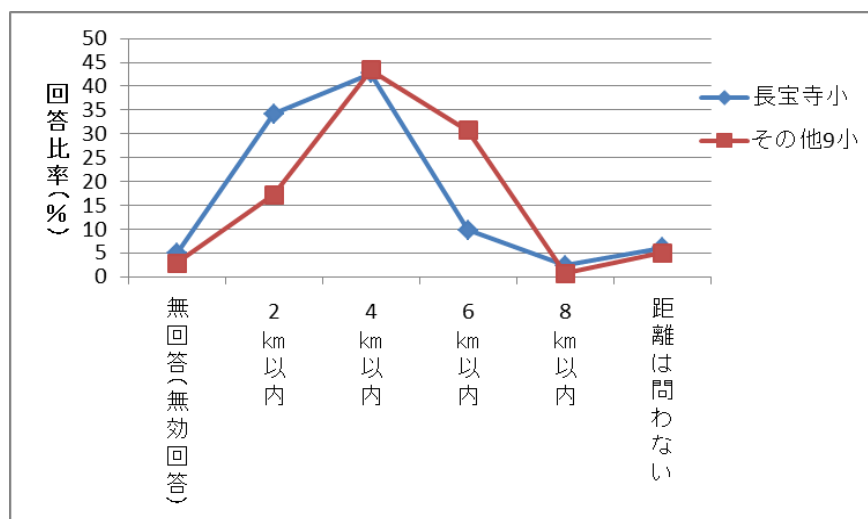
	回答者数			回答率(%)		
	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	幼稚園
無回答(無効回答)	23	1	2	3.0	0.4	2.3
2km以内	144	51	19	19.1	21.3	22.1
4km以内	327	107	35	43.3	44.8	40.7
6km以内	215	61	23	28.5	25.5	26.7
8km以内	7	1	1	0.9	0.4	1.2
距離は問わない	39	18	6	5.2	7.5	7.0
合計	755	239	86	100	100	100



概ね、小学校・中学校・幼稚園すべての保護者で同じ比率での回答となり、最も多い回答は「4km以内」で全体の40%程度であった。次いで、「6km以内」「2km以内」の順に回答が多かった。

②「長宝寺小学校保護者」「長宝寺小学校を除く公立9小学校の保護者」の対比による集計

	回答者		回答比率(%)	
	長宝寺小	その他9小	長宝寺小	その他9小
無回答(無効回答)	4	19	4.9	2.8
2km以内	28	116	34.1	17.2
4km以内	35	292	42.7	43.4
6km以内	8	207	9.8	30.8
8km以内	2	5	2.4	0.7
距離は問わない	5	34	6.1	5.1
合計	82	673	100	100



長宝寺小・その他9小の保護者とも「4km以内」との回答が約43%で最も多かったが、長宝寺小保護者では、「2km以内」が34%、「6km以内」が10%であったのに対して、その他9小保護者では、「2km以内」が17%、「6km以内」が31%であった。

4. 教育環境の整備について

(1) これからの小中学校に期待する役割・機能について (保護者用アンケート設問9)

問 交野市立の小・中学校は、本市の保有する公共施設の過半を占めていることや、各地域に配置されていることから、地域コミュニティの中心としての役割が今後ますます大きくなることも考えられます。
そこで、これからの学校に期待する役割・機能①～⑤について、
あなたのお考えに近いものの数字を1つ〇で囲んでください。

①「小学校保護者」「中学校保護者」「幼稚園保護者」の対比による集計

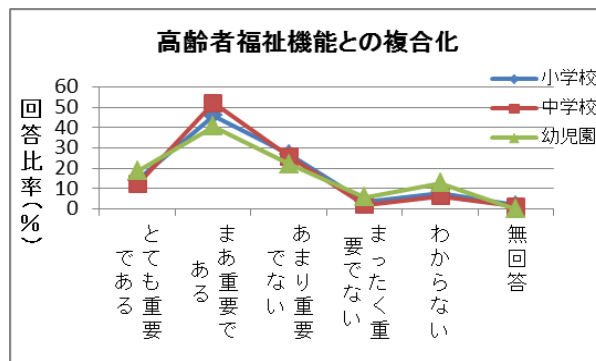
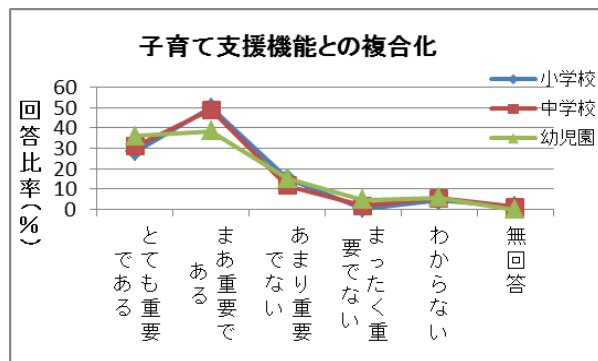
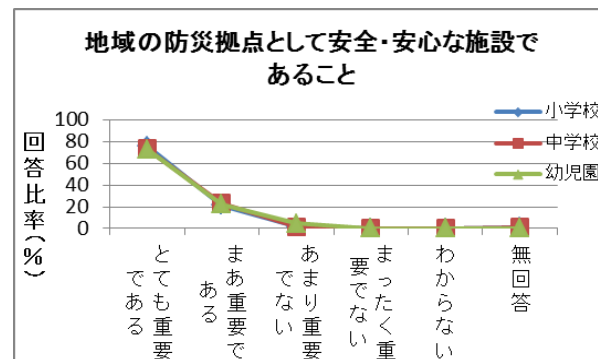
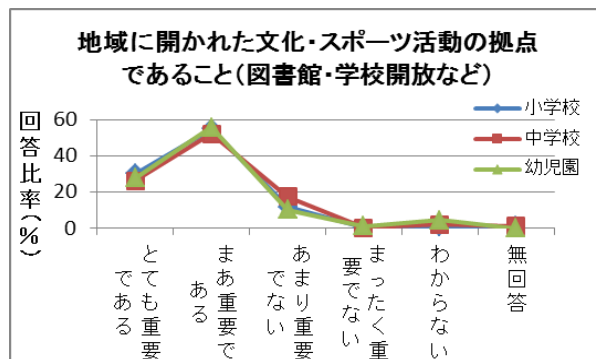
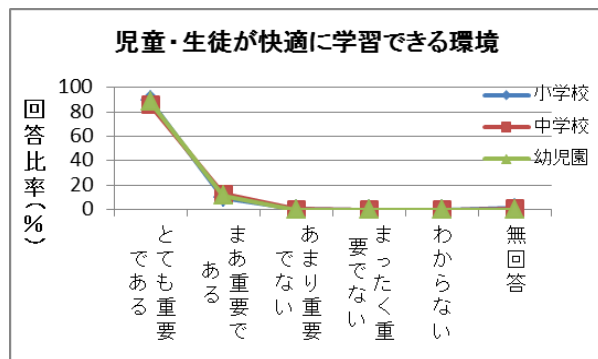
	回答者数						回答比率(%)					
児童・生徒が快適に学習できる環境	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答
小学校	675	72	1	0	0	7	89.4	9.5	0.1	0	0	0.9
中学校	205	31	1	0	0	2	85.8	13.0	0.4	0	0	0.8
幼稚園	76	10	0	0	0	0	88.4	11.6	0	0	0	0

	回答者数						回答比率(%)					
地域に開かれた文化・スポーツ活動の拠点であること(図書館・学校開放など)	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答
小学校	228	415	90	4	8	10	30.2	55.0	11.9	0.5	1.1	1.3
中学校	63	125	42	1	5	3	26.4	52.3	17.6	0.4	2.1	1.3
幼稚園	24	48	9	1	4	0	27.9	55.8	10.5	1.2	4.7	0

	回答者数						回答比率(%)					
地域の防災拠点として安全・安心な施設であること	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答
小学校	576	159	11	0	0	9	76.3	21.1	1.5	0	0	1.2
中学校	176	56	4	0	0	3	73.6	23.4	1.7	0	0	1.3
幼稚園	63	19	4	0	0	0	73.3	22.1	4.7	0	0	0

	回答者数						回答比率(%)					
子育て支援機能との複合化	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答
小学校	213	378	114	4	34	12	28.2	50.1	15.1	0.5	4.5	1.6
中学校	74	117	28	4	13	3	31.0	49.0	11.7	1.7	5.4	1.3
幼稚園	31	33	13	4	5	0	36.0	38.4	15.1	4.7	5.8	0

高齢者福祉機能との複合化	回答者数						回答比率 (%)					
	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答
小学校	107	347	204	27	57	13	14.2	46.0	27.0	3.6	7.5	1.7
中学校	29	125	62	5	15	3	12.1	52.3	25.9	2.1	6.3	1.3
幼稚園	16	35	19	5	11	0	18.6	40.7	22.1	5.8	12.8	0



「児童・生徒が快適に学習できる環境」「地域に開かれた文化・スポーツ活動の拠点であること(図書館・学校開放など)」「地域の防災拠点として安全・安心な施設であること」については、小学校・中学校・幼稚園すべての保護者で概ね同じ回答比率であった。

「子育て支援機能との複合化」「高齢者福祉機能との複合化」についても、「とても重要である」「まあ重要である」を合わせると、概ね、小学校・中学校・幼稚園すべての保護者で同じ回答比率であった。

②「長宝寺小学校保護者」「長宝寺小学校を除く公立9小学校の保護者」の対比による集計

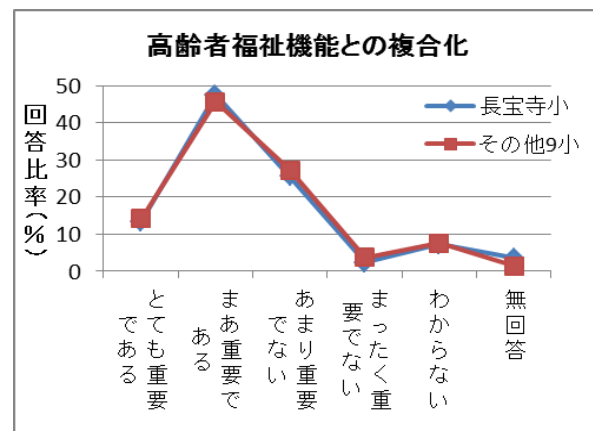
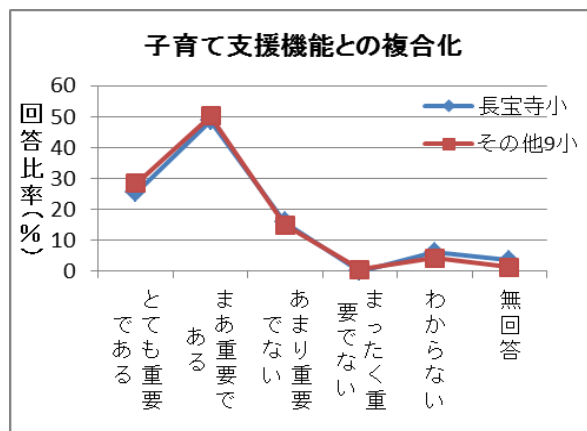
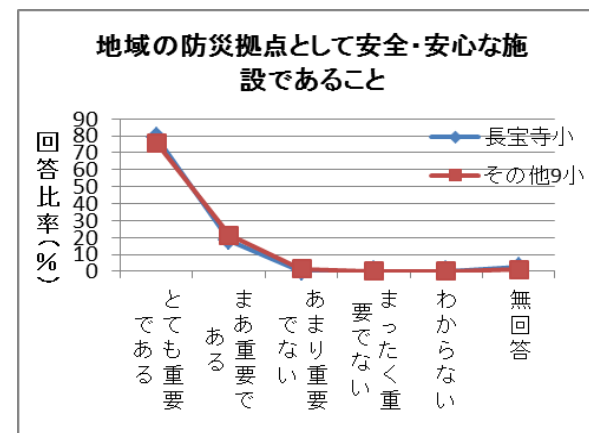
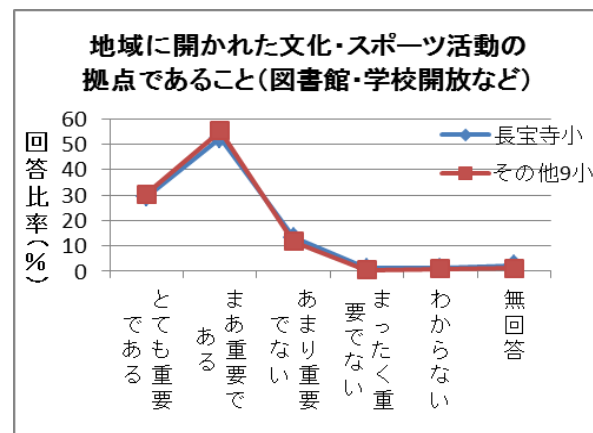
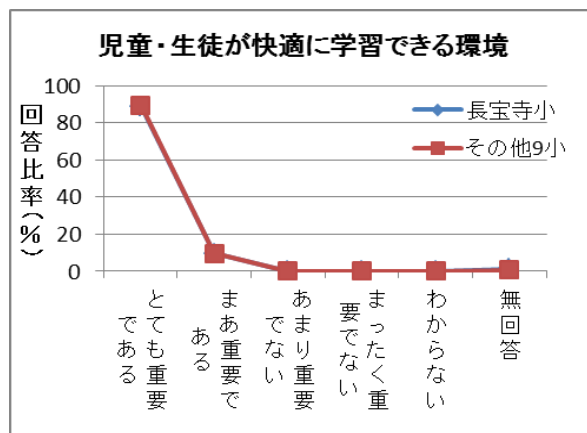
	回答者数						回答比率(%)					
	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答
児童・生徒が快適に学習できる環境												
長宝寺小	73	8	0	0	0	1	89.0	9.8	0	0	0	1.2
その他9小	602	64	1	0	0	6	89.5	9.5	0.1	0	0	0.9

	回答者数						回答比率(%)					
	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答
地域に開かれた文化・スポーツ活動の拠点であること(図書館・学校開放など)												
長宝寺小	24	43	11	1	1	2	29.3	52.4	13.4	1.2	1.2	2.4
その他9小	204	372	79	3	7	8	30.3	55.3	11.7	0.4	1.0	1.2

	回答者数						回答比率(%)					
	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答
地域の防災拠点として安全・安心な施設であること												
長宝寺小	65	15	0	0	0	2	79.3	18.3	0	0	0	2.4
その他9小	511	144	11	0	0	7	75.9	21.4	1.6	0	0	1.0

	回答者数						回答比率(%)					
	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答
子育て支援機能との複合化												
長宝寺小	21	40	13	0	5	3	25.6	48.8	15.9	0	6.1	3.7
その他9小	192	338	101	4	29	9	28.5	50.2	15.0	0.6	4.3	1.3

	回答者数						回答比率(%)					
	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答	とても重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない	わからない	無回答
高齢者福祉機能との複合化												
長宝寺小	11	39	21	2	6	3	13.4	47.6	25.6	2.4	7.3	3.7
その他9小	96	308	183	25	51	10	14.3	45.8	27.2	3.7	7.6	1.5



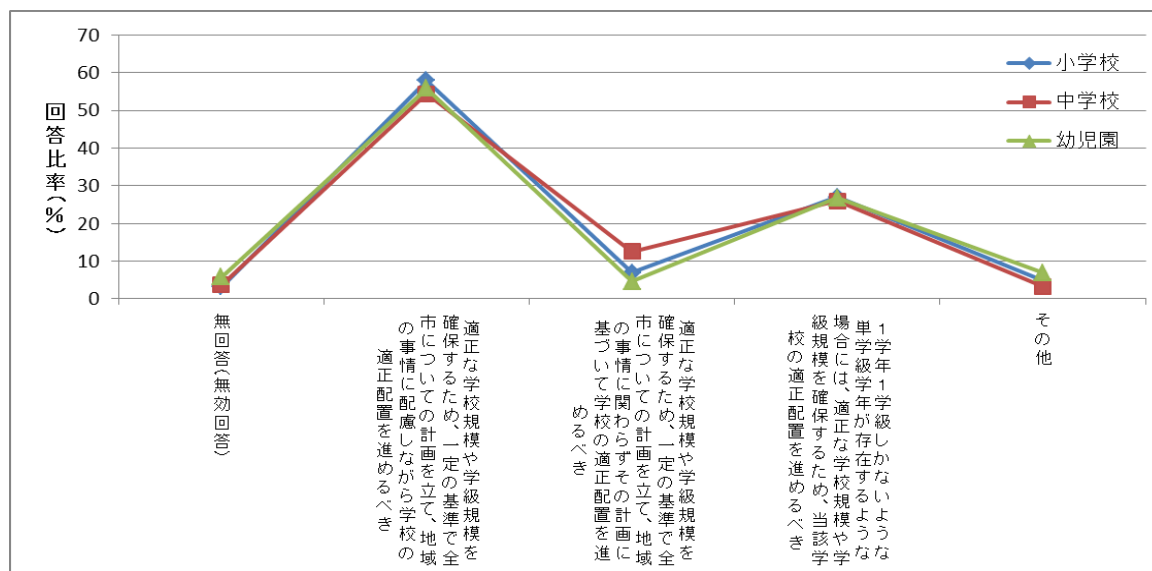
全ての項目において、長宝寺小学校保護者と長宝寺小学校を除く公立9小学校の保護者の回答比率に大きな差はなかった。

(2) 学校の適正配置の進め方について (保護者用アンケート設問10)

問 交野市立の小・中学校の児童・生徒数については、平成28年度時点でピーク時(昭和57年度)から約46%減少しており、さらに今後も減少する見込みとなっています。
すでに、クラス替えのできない学校もある中で、学校の再配置の検討が必要な時期を迎えているところですが、交野市として今後どのようにすることが望ましいと思いますか？
あなたのお考えに近いものを1つ選んでください。

①「小学校保護者」「中学校保護者」「幼稚園保護者」の対比による集計

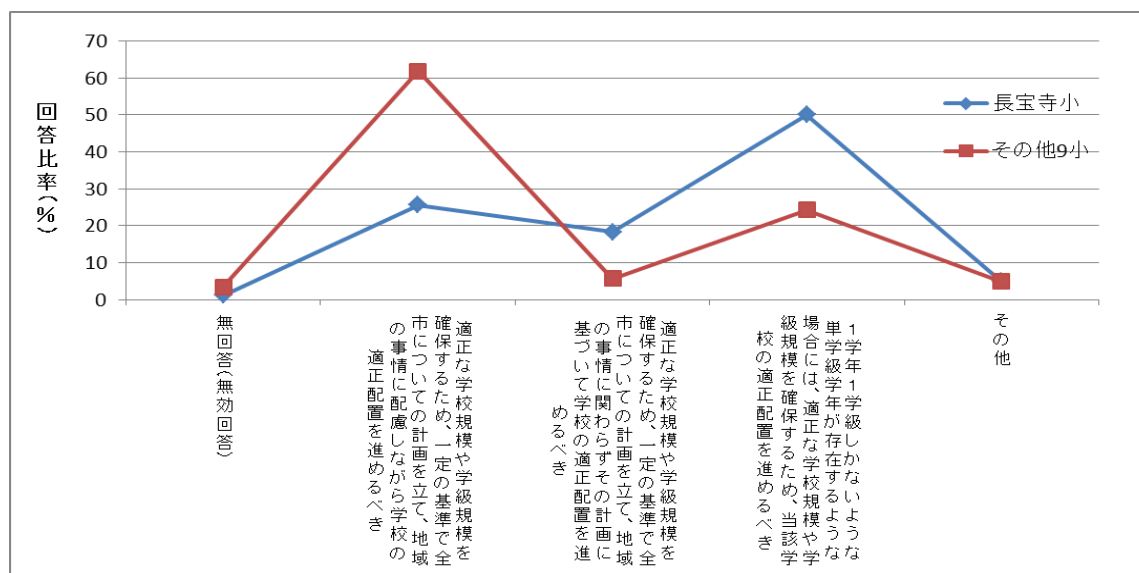
	回答者数			回答率(%)		
	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	幼稚園
無回答(無効回答)	24	9	5	3.2	3.8	5.8
適正な学校規模や学級規模を確保するため、一定の基準で全市についての計画を立て、地域の事情に配慮しながら学校の適正配置を進めるべき	437	130	48	57.9	54.4	55.8
適正な学校規模や学級規模を確保するため、一定の基準で全市についての計画を立て、地域の事情に関わらずその計画に基づいて学校の適正配置を進めるべき	53	30	4	7.0	12.6	4.7
1学年1学級しかないような単学級学年が存在するような場合には、適正な学校規模や学級規模を確保するため、当該学校の適正配置を進めるべき	204	62	23	27.0	25.9	26.7
その他	37	8	6	4.9	3.3	7.0
合計	755	239	86	100	100	100



小学校・中学校・幼稚園すべての保護者で、各選択肢に対する回答比率に大きな差はなかった。

②「長宝寺小学校保護者」「長宝寺小学校を除く公立9小学校の保護者」の対比による集計

	回答者		回答比率(%)	
	長宝寺小	その他9小	長宝寺小	その他9小
無回答(無効回答)	1	23	1.2	3.4
適正な学校規模や学級規模を確保するため、一定の基準で全市についての計画を立て、地域の事情に配慮しながら学校の適正配置を進めるべき	21	416	25.6	61.8
適正な学校規模や学級規模を確保するため、一定の基準で全市についての計画を立て、地域の事情に関わらずその計画に基づいて学校の適正配置を進めるべき	15	38	18.3	5.6
1学年1学級しかないような単学級学年が存在するような場合には、適正な学校規模や学級規模を確保するため、当該学校の適正配置を進めるべき	41	163	50.0	24.2
その他	4	33	4.9	4.9
合計	82	673	100	100



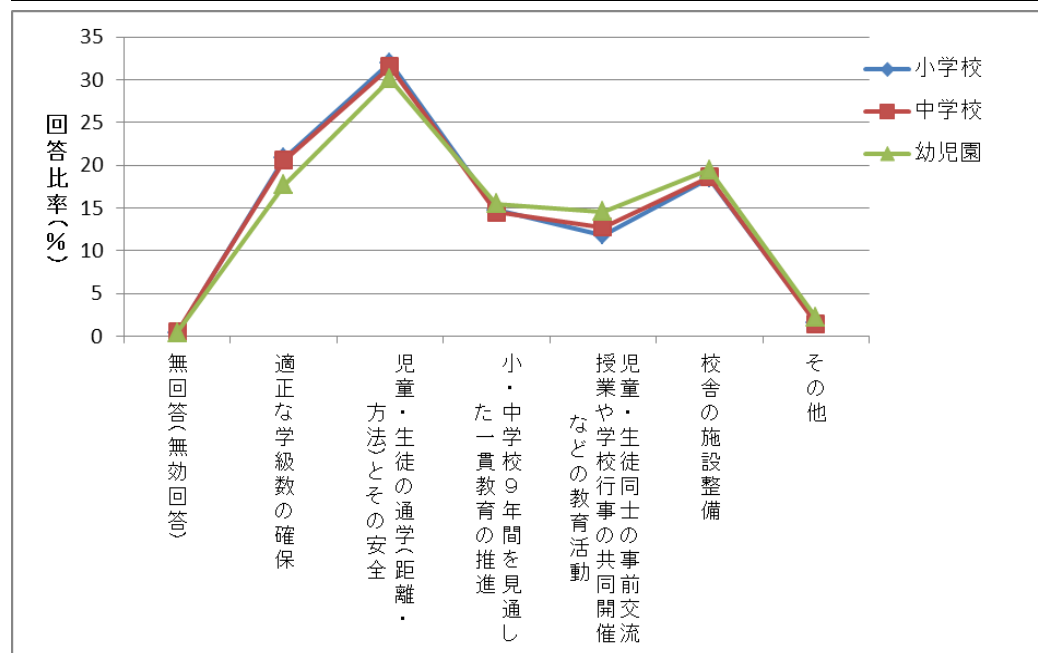
その他9小保護者では「適正な学校規模や学級規模を確保するため、一定に基準で全市についての計画を立て、地域の事情に配慮しながら学校の適正配置を進めるべき」との回答が一番多く約62%であったのに対し、長宝寺小保護者では約26%であった。また、長宝寺小保護者では「1学年1学級しかないような単学級学年が存在するような場合には、適正な学校規模や学級規模を確保するため、当該学校の適正配置を進めるべき」との回答が最も多く50%であったのに対し、その他9小保護者では約24%であった。

(3) 学校規模適正化を進める上で配慮すべき点について (保護者用アンケート設問11)

問 学校の規模適正化等を進めるうえで、配慮すべき点だと思われるものを3つ選んでお答えください。

①「小学校保護者」「中学校保護者」「幼稚園保護者」の対比による集計

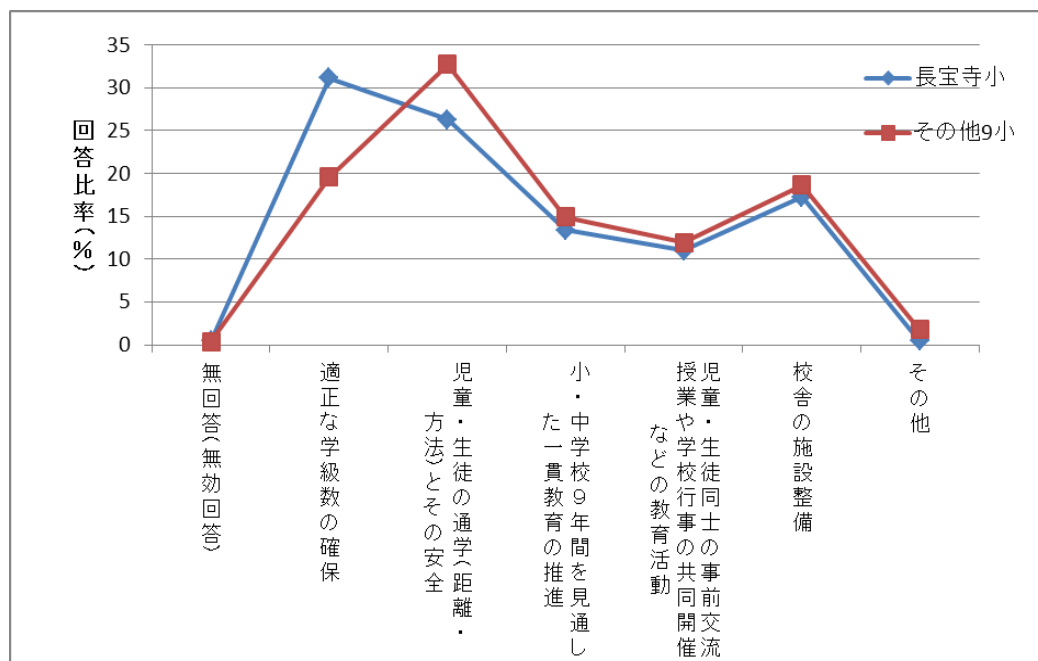
	回答者数			回答率(%)		
	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	幼稚園
無回答(無効回答)	8	3	1	0.4	0.5	0.4
適正な学級数の確保	405	126	40	20.8	20.6	17.7
児童・生徒の通学(距離・方法)とその安全	622	193	68	32.0	31.5	30.1
小・中学校9年間を見通した一貫教育の推進	287	89	35	14.8	14.5	15.5
児童・生徒同士の事前交流授業や学校行事の共同開催などの教育活動	230	78	33	11.8	12.7	14.6
校舎の施設整備	359	114	44	18.5	18.6	19.5
その他	32	9	5	1.6	1.5	2.2
合計	1943	612	226	100	100	100



小学校・中学校・幼稚園すべての保護者で回答比率に大きな差は見られず、「児童・生徒の通学(距離・方法)とその安全」に配慮すべきであるとの回答が、一番多かった。

②「長宝寺小学校保護者」「長宝寺小学校を除く公立9小学校の保護者」の対比による集計

	回答者		回答比率(%)	
	長宝寺小	その他9小	長宝寺小	その他9小
無回答(無効回答)	1	7	0.5	0.4
適正な学級数の確保	65	340	31.1	19.6
児童・生徒の通学(距離・方法)とその安全	55	567	26.3	32.7
小・中学校9年間を見通した一貫教育の推進	28	259	13.4	14.9
児童・生徒同士の事前交流授業や学校行事の共同開催などの教育活動	23	207	11.0	11.9
校舎の施設整備	36	323	17.2	18.6
その他	1	31	0.5	1.8
合計	208	1727	100	100



「適正な学級数の確保」に対する回答比率が、その他9小保護者では19.6%であったのに対し、長宝寺小保護者では31.1%と一番多い回答となった。また「児童・生徒の通学(距離・方法)とその安全」については、その他9小保護者32.7%で最も回答が多かったのに対し、長宝寺小保護者では26.3%であった。

Ⅳ. その他意見（自由記述欄）への回答について

※その他意見右側の括弧内の数字は同じ回答をした回答者の数

※記載のない問については、その他意見なし

1. 保護者用アンケートその他意見

問3-2 その他意見	問3で「1学級あたり20人以下」または「1学級あたり21人～30人」と答えられた方の理由
------------	--

- ・先生が目が行き届きやすい。（10）
- ・担任教師の負担が多すぎない様に。（3）
- ・先生が目が一人一人に向けられる（把握できる、見守りできる）人数だから。（3）
- ・現在35人以下で1クラスのため、せめて2クラスにしてほしいから。（2）
- ・担任の負担が大きいと子供達への目が行き届かないから。
- ・ここ何年か見て、先生の質が低下傾向のため、今の教師の能力では多人数だとクラスをまとめる力が無い先生が多いと感じるので。
- ・人件費以外1～4すべての面においてよい。1クラスの人数が多すぎる。
- ・20人は少なく、30人くらいで多過ぎず、少な過ぎず。
- ・担任の先生の業務量が少しでも減り、その結果、1～4のような良い効果が出てくると思います。
- ・目が行き届き子どもとの関係が築ける。また先生の負担の軽減により質の高い教育が期待される。
- ・近年様々な事例があり手のかかる親子が増えた為、先生方の目が届きやすい人数かと思うからです。
- ・児童同士が密になることにより、長所だけでなく短所を知り、理解受容ができるのではないかと考えます。
- ・現在5年生の子供のクラスが25人でもう少し多い方がよいと子供が言ったから。
- ・ベテランの先生ならば35人以上がいいですが、初任の先生などは人数が多いと子供達を見れる余裕や雑務は少ない方がよさそうに思います。
- ・1学年1クラスになるといろいろ大変だと思うため。
- ・先生が一人ひとりに目を配れる人数であると思われる。自己表現が上手にできない子供も多いので、学校生活や勉強でつまずいている子供のSOSに気付いてあげられる人数が30人以下ではないかと思う。
- ・色々な子供の問題の見過ごしが少ないかなと思います。

問3-3 その他意見	問3で「1学級あたり31人～35人」、「1学級あたり36人～40人」、「1学級あたり41人以上」と答えられた方の理由
------------	--

- ・法令で標準とするとなっているので何か理由があるのでは。
- ・自分自身が31人の学級だったので問題無いと思う。
- ・多くの児童との交流が生まれつつ、ひとりひとりが大切にされる人数。
- ・40人では多いと思う。少人数の方が一人一人を丁寧に見てもらえると思う。（2）
- ・教員が児童全体を見ることのできる限界ぐらいの数字だと思ったから。

- ・先生が児童一人ひとりに対して指導が行き届かない。
- ・教室の大きさの問題かもしれないが40人以上だと参観の時などに親が中に入れない。
- ・多いと担任の負担が大きいのかと思う。
- ・多くの児童との交流が生まれるが、先生が一人ひとりを見るには多すぎてもいけないと思う。
- ・先生が担当する児童数は多くもなく少なくもない適当な人数。
- ・自分がそうだったから。
- ・1人の教員での指導は35人以下が妥当と思うから。目が行き届くから。(3)
- ・現状でちょうど良い。
- ・多過ぎず、少な過ぎずまとまるのに適正。
- ・教室が狭く感じるので、余裕をもてる空間づくりも大事だと思う。
- ・(学力ではなく)一丸となって何かに取り組むときに、力を発揮できる。
- ・人数が少なすぎたら、集団内の役割や協調性を学ぶことができない。多すぎると一人ひとりの個性を把握してあげる事ができないように思うので。
- ・保育所の5歳児でも保育士1人に対して園児30人なので、それに少し増えるか同じくらいの方が、目が行き届くと思う。
- ・少なすぎず多すぎずちょうど良いぐらいだと思う。

問4-2 その他意見 問4で「1学年あたり1学級」または「1学年あたり2学級」と答えられた方の理由

- ・運動会で偶数学級だとクラスとしての一体感が生まれる(赤組、白組)。
- ・子どもの学年が2学級であるが、今の状況は良いと感じているから。
- ・合わない子ともコミュニケーションをとる必要が生じ、社会に出たときに混乱が生じにくい。
- ・現状でちょうど良い
- ・学年の皆と友達になれるから。
- ・先生の人数が増え、クラスメイトの和ができやすいと思う。
- ・自分がそうだったから。
- ・子供が少ないので。
- ・皆が顔なじみになれるから。
- ・学級数は多くても良いと思ったが、少子化なので無理と思ったから。

問4-3 その他意見 問4で「1学年あたり3学級」、「1学年あたり4学級」、「1学年あたり5学級以上」と答えられた方の理由

- ・子供達に何らかの問題が生じた場合に選択肢が多い方が望ましい。
- ・合わない児童同士を離すことがやりやすいから。
- ・いじめ問題やクラス崩壊時に1学級だと6年間中に対応できない可能性もある。3学級くらいが妥当だと思う。
- ・いじめなど、子どものどうしてもトラブルになる児童を分けられる。(いじめた側、いじめられた側と分けることで、登校できるようになることもありえる)。
- ・ネガティブな意見で申し訳無いですが、苦手な級友と離れる可能性が高くなる。あるいは、今年度我慢すれば

- 次の学年では・・・と耐えることを頑張りやすくなる。
- ・クラス替えすることで違う雰囲気でのクラスも感じられる。
 - ・多くの個性に出会えるから。
 - ・3クラスぐらいあった方が運動会でも盛り上がるし、クラス替えが楽しみになるから。
 - ・クラス毎の協調性が芽生える。
 - ・クラスの人数は少なく、学級数を増やすことで、少人数でクラスの統一感や、クラス対抗や戦うことの大切さや仲間意識・団結力なども学べると思う。学校は勉強と人と人とのつながりやコミュニケーションを形成できる組織だと思う。
 - ・学校全体の雰囲気が良い状態に保てるのではないかな？
 - ・クラス替えがあり、人との出会いが増える。その中で気の合う友人関係が築ければいいと思う。友人はたくさんいればいいというものではない。一人でも親友と呼べる関係が築ければよい。
 - ・1学級あたりの人数は少なくして1学年あたりの学級数はこの程度あった方が、活気があり行事等の時も楽しいのでは。
 - ・多い方が社会性を身に付ける事に役立つと思う。
 - ・いろんな個性を持つ友達に出会える。みんな違うってことを学んでほしい。
 - ・学年の先生が増えれば分担出来る事も増え、教育・クラス活動の充実につながると思うので。
 - ・少なすぎると質の悪い先生に当たった場合困る。
 - ・少なすぎると比較ばかりになるし、多くなると交流がすくないような。
 - ・歌「友達100人出来るかな」にあうように100人は同学年にしてほしい。
 - ・100人程度が望ましく思う。
 - ・クラスが少なすぎると刺激があまり無く、クラスが多すぎると顔や名前の知らない同級生ができる
 - ・行事で子供の姿を見つけられる上限の数だから。
 - ・1つのクラスに詰め込みすぎないで欲しい。
 - ・少人数制を期待するため(2)
 - ・学校全体の児童数が多くても学級の人数が少ない方がいいと思うので、学級数が増えてもいい。だけど、教室が足りないようなら現状維持でよいと思う。
 - ・こだわらない。
 - ・学級数は少なくても多くてもどちらでもよい。
 - ・30人位の人数だと4クラスぐらいになるのかなと思って。運動会でも偶数のクラス数の方が競技しやすいと思う。

問5-2 その他意見	問5で「1学級あたり20人以下」または「1学級あたり21人～30人」と答えられた方の理由
------------	--

- ・先生の負担を考えて。
- ・余り少ないのも不安があるが、多すぎると教室が狭くぎゅうぎゅうな感じがして。
- ・多感な時期でもあり、最近は思春期にもいろいろあるので、ちょっとした生徒の変化にも気付いてくれやすそう。
- ・教室がぎゅうぎゅう詰めでゆとりがなく、後ろの生徒がさぼっている姿をよく見る為。
- ・先生の目が届く。
- ・13～15歳は心も体も成長し、他人の受け入れ、他者との違いによる疎外など、様々な問題を抱える時期なので、クラスは少人数でトラブルがあった際はクラス替えなどで対応できる環境を整えてもらいたい。

- ・教室が狭いので、それぐらいがちょうど良い。
- ・自分の時も30人ぐらいだったから。

問5-3 その他意見 問5で「1学級あたり31人～35人」、「1学級あたり36人～40人」、「1学級あたり41人以上」と答えられた方の理由

- ・学級数は少なくとも多くてもどちらでもよい。
- ・教室がぱつぱつなのはいただけません。
- ・従来通りでいいと思う。
- ・組織力の確立、集団での協調性が生まれる。
- ・思春期で急にグれる子もいる中、交野は給食なので配膳の事を考えればこれくらいの人数で、落ちついて昼食してほしい。
- ・個性がはっきり出てくる時期なので、あまり少ないと自分に合う子がいなかったときに孤独になってしまうから。
- ・現在（子供が）小学校であるが、31～35人学級でちょうど良いから。
- ・学習指導に目が届きながら、団体で大きなことをする経験も積める。
- ・1人の教員での指導は35人以下が妥当と思うから。目が行き届くから。
- ・一人一人が大切にされ、かつ多くの生徒との交流が生まれる人数はこれぐらいかと・・・
- ・いじめがあってもわかりやすい。
- ・自分がそうだったから。
- ・先生が担当する生徒数は多くもなく少なくもない適当な人数。
- ・100人程度が望ましく思う。
- ・先生が生徒一人ひとりに対して行き届かない。
- ・教室の広さに丁度あっているから。
- ・学習・行事において中学生の子どもが活動できる適当な人数だと思うので。

問6-2 その他意見 問6で「1学年あたり1～2学級」または「1学年あたり3～4学級」と答えられた方の理由

- ・クラス替えもでき、学年人数100人ほどいると行事の規模も、それなりになるかと思う。
- ・自分がその環境で育ってきて、それがちょうど良かったと思うから。
- ・少ないと先生が目が行き届くし、少し多めだと楽しいと思ったから。
- ・同学年で知らない子はいないくらいの規模がよい。（2）
- ・人数で分けるとそのくらいになる。
- ・少なすぎると先生の数が少なく合わない場合困る。
- ・生徒を取り巻く環境は年々複雑になっているので全体数は少ない方がよい。
- ・人間関係の難しい年頃なので、人数の多い方が問題を深くしなくてすむ気がするから。
- ・理由はないです。
- ・担任の先生が目が行きやすい30人以下の学級を希望します。目に見えないトラブルが多い時代、ソーシャルネットワークのトラブルが多い時代の対応に大人がどう対処していくか？少人数でしっかり見てもらう環境と学級を分けることで、クラス替えなどでトラブルをさける方策もとれる様にしてもらいたい。

- ・従来通りでいいと思う。

問6-3 その他意見 問6で「1学年あたり5学級」、「1学年あたり6学級」、「1学年あたり7学級以上」と答えられた方の理由

- ・増減のメリットが感じられないので標準でよい。
- ・なんとなく。
- ・多くの人と接することでいろいろな人間関係を学び社会性が育つ。
- ・学年の人数によりますが、1クラス大人数にしてしまうと、多感な時期なので心配です。
- ・よくわからない。
- ・従来通りでいいと思う。
- ・こだわらない。
- ・中学教育の資本集中により、市内レベルのボトムアップが望める。
- ・現状でも教師が対応しきれていないのに増やす意味がわかりません。学級か人数より教師の質を上げてほしいと思います。
- ・4～5学級 協調性。
- ・一人一人に対応できると思う。
- ・数人の大切な友人が見つかるかもしれない。
- ・より多くの生徒とかかわってほしいから。
- ・不明。
- ・現状でちょうど良い。
- ・クラス替えがあり、人との出会いが増える。その中で気の合う友人関係が築ければいいと思う。友人はたくさんいればいいというものではない。一人でも親友と呼べる関係が築ければよい。
- ・1学級の人数が少ないと、先生の目が行き届くのでは。
- ・1クラスの人数は少なくてもいいけど、体育祭や合唱コンクールはクラスが多い方が対抗できるし、いいのでは？
- ・一人一人に目が届きやすい。
- ・自分がそうだったから。
- ・体育祭等の縦割り編成がしやすい。
- ・苦手な人間とできるだけ離すことが可能なため。
- ・7学級以上だと卒業まで知らないままの人も多いので。
- ・1クラスあたりの人数を決めるとそのくらいになるのではと思う。
- ・中学についてはよくわかりません。
- ・学年や全校行事が盛り上がると思うので。
- ・1クラス31から35人となるとそのあたりのクラス数かと思ったから。
- ・目が行き届いていない。

問9 その他意見 公立小・中学校に期待する役割・機能があればご自由にお書きください。

- ・放課後児童会とPTAの保護者の活動負担の軽減。共働きが多くなる中で、大変負担が大きいです。児童会においても、

週3日勤務でも預かりをしてもらいたい。一緒に帰る友達が少なく登下校が不安なため。

- 子ども、世帯数が減っている校区でのクラスやPTA役員はとっても大変です。家庭と仕事の両立にも少し配慮のある形がほしい。
- 学童保育の在り方が疑問。なぜ働いて忙しい親に役員や行事の運営・参加を強制するのか？
PTAの活動の存在意義も疑問。不効率、無駄の多い運営で、保護者が自分で自分たちの首を絞めている。
PTA・学童の在り方を見直し、親の負担の少ない運営にしてほしい。親の負担が少ないことをしっかりアピールすれば、子育て世代の増加、税収増加にもつながるはず。また学童保育について、夏休みだけの受け入れを可能にしてほしい。
役員が嫌で児童会に子供を入れず、不安ながらも家で留守番させている家庭も多い。また、夏休みの子供を預ける場所が無いことをネックに、働きに出られない母親も多い。高齢者施設との複合化を考えるより先に、子どもに必要な支援を考えてほしい。
- 月一度でも土曜日に授業があってもよいと思う。
- 英検取得や英語に関する授業を増やして欲しい。塾に行かなくても良いぐらいの教育をして欲しい。不登校の子の行き場を作って欲しい。
- 教育の個別化、ユニバーサルデザインに力を入れてほしい。タブレット授業やテキスト選択、その子その子それぞれなので、もっと多様化して選択肢を増やしてほしい。
- ゆとり教育をやめてほしい
- 放課後、児童が勉強できる場を開放していただきたい。質問を受けてくださるボランティアの方や定年後の方の雇用（シニア枠）が広がるのでは？
- 塾に頼らなくてもいいように、勉強はしっかり教えてほしい。
- 学力が低く塾に入れない子がいるので、有料でもいいから寺子屋的な物があればうれしいです。
（先生方が日頃忙しすぎて申し訳ないです）。
- 放課後個別指導。
- 「ゆとり教育」で、塾に行かないと学力低下するという傾向にあるので、もう少し学力向上のため学校が機能してほしい。
- 土曜教室などを利用して、小中学校合同でできるような行事があればいいです。
- 児童全体の学力アップ。
- 算数の少人数の先生を多く増やしてほしい。
- 放課後学習の充実。
- 放課後の補習、保育。
- トイレの整備。
- 中学校は、水道が使えない、男子トイレにはトイレトペーパーがないなどうわさで聞きます。
親としては公立中学校で大丈夫なのか不安になります。環境を整えていただけたらと思います。
- トイレの洋式化。英語教育の強化。学校によって学力に差がありすぎるので底上げしてほしい。
- トイレの整備、新しくしてほしい。
- 衛生的にトイレの改善。
- 交野市内の小学校のトイレを新しくしてほしいです。
- 放課後のグラウンド開放。
- 学校が終わった後、グラウンドでもう少し遊べる日がほしい。（小学校）
- ボール遊びが出来る場所が無いため、放課後に解放してほしい。

- 小学校の校庭を放課後解放してほしい。
- 放課後5時半くらいまで学校で自由に遊べるとよいと思います。夏休みもプール以外でも学校で遊べる時間があればよいと思います。
- ボール遊びをする場が無い。犯罪に巻き込まれる子供が増加という環境の中で、学校の校庭を安全な遊び場として常に解放してほしい。（警備上の問題はあるかと思いますが。）
- 子供の遊び場として運動場の使用を可能にする。ボール遊び出来る場所。
- 安全な子供の遊び場（放課後）
- 子供が放課後安全に遊べる場所が少ない現状でなぜ倉治小はグラウンドの開放をしていないのか疑問です。他の公立小ではされているのに。子供が安全にのびのび育つことは将来の市の税収入や発展に必ず貢献すると思うのでガードマンを配置するなどして学校グラウンドの開放を水曜だけでなく他の曜日にもしてほしいとよく思います。子供も「相手の家が分からないから学校で待ち合わせ」と言って放課後遊びに行きます、親としては学校の後の足取りがつかめず、不安です。学校は皆知っている。
- 遊べる場所、公園がなさすぎるため、土日や夏休み等のグラウンド、体育館、学校のプールの利用できる機能があれば大変助かります。
- 放課後の運動場を児童公園のように解放していただきたい。帰宅後に再度学校に行って遊ぶ場合はすべて自己責任で。
- 子供達が休日体を動かして遊べる場所として使用（特に球技が出来る）出来る時間を設けてほしい。校区外に行く事も避けることが出来るので。
- 放課後や休日に校庭を安全な公園として開放してほしい。
- ボール遊びなど、子供たちが伸び伸びと体を動かし遊ぶことの出来る場所が近くには全くないので、夏休み等の長期休みの時期も遊ぶ場所に困らないように機能して欲しいと思います。家の前で少しボール遊びをしたり、遊ぶ声がうるさいと怒鳴られるのは、あまりにも可哀そうです。
- 学校が終わった後、グラウンドでもう少し遊べる日がほしい。（小学校）
- 子育て支援というか地域と一体となつての子育てや高齢者の見守り等総合的なコミュニティを支援する機能がほしいです。
- 地域との交流。
- 幼い子やお年寄りの方との交流はよいと思います。
- 地域の防災拠点の観点から、災害時にトイレや炊き出しで不便だと思われるので、子供用というよりは老人・障害者にも配慮したトイレ設計（数も）、各学校で調理室をつくるなどするとよいのではないだろうか。また、連携の中継点となることから、日頃から地域連絡室などを置いて利用しておいた方がよいと思う。（会議室などとして普段から地域の人が使う）
- 学校を軸として、児童教員地域がつながれる様に。特に教員と地域に壁を感じる。もっと地域に根を張った学校をお願いしたい。
- もっと地域の人達（子供達）に開放した方がよい。
- 未就学の子供達が地域の小学校や中学校へ交流に行く機会を増やしてほしい。小さい子から見たお兄さんお姉さんへのあこがれや、生徒から見るとまだまだおさなく守ってあげたい小さい子がいる事など感じられるような交流会があればと思います。
- 通学する予定の小学校を未就学児が見学出来るような機能。
- 赤ちゃんサロン等乳幼児との交流、市の自然や田畑を残していくための活動を子どもたち中心で。
- 地域に開かれた学校運営を進めてくださっていることを高く評価します。児童のため、地域の方々のためにもこの方針

を継続していただけたらと思います。

- 私市小学校でやっている地域の老人による生け花教室や琴教室など開かれた学校づくりが他の年代との交流にもなりよいと思います。
- 多様な文化を発信し、多くの人たちが交流可能な場となること。京都市などでは、公共施設が文化や交流の場としても活用されており、そのことが地域をもりたて、あたたかな絆をうんでいるように思う。
- 地域の人々のつながりを深め、いざというときにも助け合えるような結束力を育てることができる機能。
- 学校が教育の場であることを忘れないでもらいたい。ただし、災害時の避難場所などに使われる可能性がある以上、いざという時の為の、教育現場機能を損なわず、多機能に活用できる方法のシミュレーションをされるとよいと思う。
- 現在も取り組んでいただけていますが、地域の大人、高齢者の方と接する機会を増やし、お互いに少しでも思いやれる社会になれる様…
- 地域コミュニティの中心であるとともに消費拠点がはっきりしない交野市において、消費・商業・住居も含めた複合施設となるべきと思われる。
- 空き教室の利用法として保育所も合わせてとか地域の人の学びの場としても使ったりするのはどうでしょうか？生涯学習センターのような。
- 子育て支援機能・高齢者福祉希望との複合化を考える前に放課後児童会の方を考えてほしい。郡津小学校の場合、2つに分かれている上に、ふれあいが学校外とおかしなことになっている。学校内にあるべきだと思います。
- 小学校は子供の6年間という長い年月を過ごす場所ですので、勉強はもちろん、性格や考え方等が培われ育っていく場所だと考えます。多くの人とふれ合い、多くの体験をさせたいと考えます。また、1学年1クラスですと、一度仲間外れにされると6年間ずっと仲間外れにされる可能性もあると聞き、大変不安です。私どもとしましては、地域の実情に関わらず適正配置して頂きます事を強く強く希望いたします。
- 先生は知識だけでなく人間力をつけてほしい。偏った考えで教えるのは危険。子供の可能性は無限。非常識な親との関わり、先生が時間を取られないよう、教育委員会は現場のことをもっと知るべき。未来のため大人が苦労して動くことが大切。
- 交野市を全国に知ってもらうための活動。
- 小中学校とも、常時進路についての資料など閲覧したりできる「進路相談室」の整備。また、友人関係・いじめ・不登校・子育てについて親子で利用できる「学校生活サポート室」を整備し、当該学校の関係者を除く心理士・スクールカウンセラー・管理職経験のある経験豊かな教員に相談できるような機能。
- 年寄りのことはさておき、子供たちが様々な能力を開発し、学べる機能を何よりも重視して考えるべき。
- 小学校間の児童数の差が大きい時、今後も改善の見込みが無い時は、校区の変更を推進する。
- クラス全体で障がいがある子への配慮が欲しいです。
- 勉強についていけない子のサポートや、学校に行きづらい子のサポートはあるように思います。貧困家庭でももっと勉強をしたい子のサポート。場所があれば救われる子も多いと思います。
- いじめに対する徹底、授業に英語、パソコンを取り入れる。
- 運動会の練習、当日（本番）も含めてのことですが、熱中症が心配。テントを沢山張るなどしてほしいです。見学しているだけでも辛いです。
- 地域により各小学校の色があります。その色を大事に引越ししてわが子を通わせる親もあります。新しい住宅と村の混合は難しいと思う。
- 母子家庭、父子家庭への支援。

- ・中学校は選択可能制にして欲しい。現状、〇〇小学校は〇〇中学校になっているが、別の中学校の方が近いこともあるため。
- ・ヨガ教室、パソコン教室など市民向けにしてほしい。
- ・小学校と小学校の交流、中学校と中学校との交流、小学校と中学校の交流。
- ・夏休みなどに、期間を決めて夏期講習などが自由参加であるといいのではと思います。夏休みのプールの自由公開を昔のように数を増やしていただければありがたいです。放課後のフリースペースを毎日にしていただくに当たりボランティアではなく、費用を各家庭から徴収してもよいと思う。
- ・各地域性を最大限に生かし、全地域の学力レベルの統一化に期待します。(2)
- ・昔の様な理科の実験（フナの解剖やアルコールランプ等の実験）がなくなっている様ですが、安全性を考えた上で、子供達が興味を持つ授業内容を考えて欲しい。
- ・小学校から中学校へ入学するときの生徒のひきつぎをしっかりとしてほしい。
- ・夏休みなどの長期休暇時のみの学童保育をぜひお願いします。
- ・個々の学力に応じた勉強のしかた。教科によってクラスを分けて（レベル別）少人数でやっていった方がいいのでは。質問などもしやすくなる、先生の目も行き届くのでは。
- ・私部西～交野小学校まで遠すぎて大変そう。もう少し真ん中に学校があれば。
- ・公立の学校になにを期待できるかわからない。ハード面を考えるより私立の先生たちを見てもう一度自分たちの在り方を考え直してもらいたい。
- ・子ども達が勉強以上に、人間性や道徳的なことを学べるように期待します。
- ・小学生が2km程を歩くのは本当に大変。夕方も心配、通学バスなどを出してほしい。
- ・地域の活性化について生徒一人一人が考えられる環境。最先端の設備。
- ・地域包括を含め地域全体で子供達が成長していけるようにできたらと思う。
- ・学校とこども会がリンクした活動拠点があれば。
- ・学校内の給食施設。あたたかい給食を。アレルギー対応もせめて5大アレルギー対応になってほしい。
- ・支援学級の人数等、先生の配慮。学年の途中から支援シートを使えると助かる。
- ・まずは、児童生徒がのびのび生き生きと通えるのが大切です。
- ・役割…子供をしっかりと見てほしい。見てるだけ～では無駄な学校生活だと。
- ・物理的にも精神的にも拠り所となる存在。
- ・適正化することによって不便になったりしないように各地域の事情に基づいた進め方をしてほしい。
- ・子供（中学生）は往復1時間以上かけて通学しています。精神面や体を鍛える面では良いかもしれませんが、今の中学生はクラブ、習い事に忙しいです。自転車通学の選択肢があれば、通学時間を勉強などに充てられると思うのですが。
- ・発達障害児のフォローを小中通しでできるような体制がほしい。
- ・交野の自然を生かしたイベントをもっと作ってほしい。
- ・子どもが学校に行きたいと思える学校に。
- ・学力はもちろん大切ですが、様々な人達と出会ったり、経験することにより、生きてゆく力になればいいなと思います。
- ・小学校は、課外活動を充実させてほしい。中学校は塾に頼らず、宿題などをきちんと出し、授業内容をしっかりとしてほしい。
- ・図書館司書の配置、教育・業務の拡充、学童申込条件（勤務時間）の緩和、室内での学校開放日（フリースペース）の実施。
- ・障害のある人、高齢者などともっと接して弱者の立場や思いを理解できるような人間を教育して行ってほしい。
- ・小学校は特に子どもにとって一番大事な時期だと思うので、「人間を育てる」と言う本来の目的をもう一度しっかり見つめ直すことが必要だと思います。その他のことは「二の次」です。

- 皆、元気に楽しく学び、良いこと、悪いことを経験する場所。
- 相互に連携できるシステムがあるとよいと思います。中学に入学するまで中学校のことを知る機会がほぼないので。
- 給食の味と量の改善。

問10 その他意見 適正配置について、交野市として今後どのようにすることが望ましいですか

- 1学年1学級しかない学校は廃校とし、他の学校とあわせて再編成すべし。子供数が減少している、していくなら適正な学校数を検討すべし。（校舎維持にかかる経費の削減にもなる。）
- 長宝寺小学校での児童数の激減を何年も前から放置するのではなく、即、対応すべきです。いつまで見て見ぬふりをするのでしょうか。
- 1学年1学級の長宝寺小学校は、とてもよい部分もありますが、子どもの多様性や経験値からすると、1学級の人数は少なく、クラスは多い方が出合う先生も増えますので、そちらを希望します。
- 児童生徒が減少し、たとえ1クラスとなっても統合せず、現状のままでいてほしい。私は小学生時6年間どの学年も1クラスでしたが、楽しかったです。1クラスが数人なら考えないといけないかもしれませんが。
- 1学年1学級あるときは現状のまま（通学の負担が増えない為にも学校は減らさない）。
- 今の校区割のままでお願いします。
- 行きたい学校があり、そのために家を購入しているので、学区が変わると困る。
- 1学年1学級でも良いので、その地域に根ざした学校があるべき。
- 学校の適正配置には反対です。
- 今でこそ児童（生徒）ひとりひとりに目が届いていないのに増やす必要ない。学校までの距離が今以上に増えると危険もそれだけ増える、安全保障はできるか？単学級は単学級の良さがある、合わせばいいという問題ではない。
- 人数の基準を合わせる、経費の事だけ考えて安易に小中一貫校等とするのは良くないと思います。
- 訳が分からない基準に縛られることが無く、子供たちの環境を第一に考えるべき。必要とあれば他の学校と連携が取れなくもない距離にある。
- いまのままでよい。
- 交野市に居住する人はその地域性も承知の上で住んでいると思うので、管理しやすいとの理由で統廃合をすべきではないと思う。
- 教育の交野市を全面的に出した街づくりを推進すべきで安易に統合すべきではない。
- 通学距離のバランスを考えて、適正配置をしてほしい
- 単学級学年が3学年以上あった場合は、選択肢の3（当該学校の適正配置）を考えるとよい。
- 早急に検討し、再編統廃合の推進を行い、学校教育の制度を改めることを進めるべき。
- 校区を考え直す。
- 学校の配置よりも校区の見直しが必要。すでに入学済みの児童はそのまま、郡津小等へ入学する児童を長宝寺小へ入学させる等。
- 今のまま。児童数が少なくなりすぎた所のみ、その近隣との統廃合を考える。
- 郡津と長宝寺は一緒にしても距離的に問題無いと思う。
- 小学校同士が近すぎる学校が2校程度あるので、そこをなくしてから考えるべきかと思う。
- 児童生徒が通学する上で負担が生じるならば、再配置はすべきではない。

- 適正な学級規模も大切ですが、距離など通学のしやすさなども考えてほしいです。
- 通学する子供の事を考え、通学の近い所や合わない場所等を十分考えてほしい。
- 子供の数が少ないからといって、学校を減らし小学生を遠くまで通わせるのは低学年だと特に不安で危ない。その場合は学校までのつきそいなど他の対策も必要。
- 登校が遠距離になるのは避けるべき。
- 兄弟でも異なる小学校に通うのには絶対やめてほしい。現状でも通学距離がかなり遠いのでこれ以上遠くなるのはやめてほしい（安全面、体力面で不安である）。
- 小・中一貫校や英語教育の充実、自然の多い地域特性を生かした環境での学習など、地域特性を他市にアピールして児童人口の増加を働きかけていくことも必要であると思われる。このままであれば、交野市としての存続が危ういのではないと思われる。
- 子供の人数が増えるように市民が増えるような市にすべき幼・保・小・中を増やすべき。
- 人口が増えるように住みやすい住環境整備をする。
- 上のことより、市が交野市に引越したいと思わせる事をしていますか？交野市チャリティマラソンは他市から来てはるけど、人口アップの計画したら？
- 現状維持、それからまず子育てをサポートする社会をつくるべき。まずは子供が増えないと、交野市はサポートが少なすぎる。住みづらい街。
- 子どもがいる世帯が住みやすい市政。（２）
- どうすることがよいのかわかりません。（３）
- この学校に行きたいからと学区を選んで家を考えて住んでいるので、校区を考える場合は地域の意見を大事にしてほしい。
- この質問は小中一貫についてすべて賛成の文章では？反対の意見が無いのはおかしくないでしょうか？
- 学校としての機能を重視した上で一施設としての応用も検討してほしい（レンタルスペースとしての（塾やおけいこごと）貸し出しなど）。
- 学校の合併が行われることになっても、その浮いたお金を教育や保育に回すのであればよいと思う。
- 全ての学校の私立化。各家庭に合わせた就学援助。
- 文章が難しいためわかりません。
- 地域の事情を考慮するかしないかの点が、事情を知らない者にとって判断をできるものではない。その事情を知らないので回答できない。公にできる基準を明確に皆が分かるよう示されるべきではと思う。

問 1 1 その他意見 学校の適正配置を進めるうえで、配慮すべき点と思うものを3つ選んでください。

- もちろん適正な学校規模や学級規模は大切だとは思いますが第一は児童生徒の安全！！なので、学校の適正配置と称し学校を減らすのは安易かと思います。他にももっと方法はないのでしょうか？小さな学校小さなクラスが世界の流れだそうですよ！！よく考えてください。
- 学校をなくすだけではなく、大切に残しておくことも、少なくとも通える子供の為には、必要としている人の為にも、意味があると思う。そうすることで地域の過疎化も防ぐことができると思う。
- 子供の数が減っている今こそ、少人数学級で丁寧な教育が出来るのではないのでしょうか？
発達障害など昔はわからなかった支援の必要な子供の存在がわかってきて、一人ひとりに合わせた教育が求められています。少人数、小規模学校を望んでいるので、学校数は今のままが良いです。

自分の時のことを考えても、学級の数が多いと教室も狭く雑然としていて、先生も一人ひとりを十分に見れていたとは思えないし、先生もそれを望んでいないのではないのでしょうか？長宝寺小を見学しましたが少人数だからこそ余っている部屋を有効に使ったり、子供に良い環境だと思いました。長宝寺小は児童が少ないので、適正化、要するに統廃合の対象になることを危惧していますが、こういう学校こそ増やしてほしいです。私の子は環境に慣れるのに時間がかかり支援が必要なので、在籍中に学校が変わるなどするととても困るので、そうなるのは絶対避けてほしい。環境の変化に敏感な子が多いし、不登校などにつながるおそれもあります。また、小中一貫教育を行っている所ではどういう問題点・課題があるか、また学校は避難所にもなり、最近の震災を見ても多くの市民が避難でき安全な場所であることは必須です。単純に財政難と少子化で学校をいじくりまわすのではなく、本当に子供達の健やかな成長を保障する学校とはどうゆうものか、しっかり議論したうえで検討に入してほしいです。（将来の児童数減少は推定であって、市長戦略では星田北エリア開発や「子育てしやすいまち」の政策で子育て世帯の転入も視野に入れているのでは？現状のままで校区割を見直すのも一案では？）

- ・長小校区はもう限界です。交小校区を一部振り分けるとかという中途半端な案ではなく、余剰な学校の廃校、学区の再編成を視野に入れ、早急に抜本的な解決策を提示してほしい。もう限界です。
- ・トイレのリフォームをよろしくお願いします。
- ・せめてトイレは最低限清潔にしてほしい。校舎も内外を明るくきれいにし気持ちよく過ごせるようにするのが最優先ではないかなと思います。
- ・特にトイレの古さが目立ちます。子どもたちがトイレを我慢し、体にもよくないです。
- ・トイレを洋式できれいにしたいです。
- ・クラスの人数を減らし、学級数を確保する。先生方は子供の今後や未来の社会へ大きく関わっており、適正化を進める上で、教員への人件費の削減や待遇が悪くなるなどで、教育の品質が低下しないようにも配慮いただきたい。
- ・急ぎの人事で、不適任と思われる（経験不足の）教員が担任をもたないようにする。
- ・規模に合った先生のキャリアと配置。
- ・先生の質の向上。教育方法や指導方法の改善。
- ・中学校のクラブ活動の先生が、その道ですごい先生に出会えたため大学まで私もスポーツで進学できました。クラブ活動が先生の違いで目が出なくてチャンスを逃さないように選択肢を増やしてほしい。
- ・教員の数、合併などで学校数が減っても実質存在人数は変わりません。教育活動が適正にされる為には指導の方も過酷な環境であるべきではない。中学校の先生方、部活の顧問は過酷すぎます。いつも感謝していますが、本当に大変そうです。
- ・適正な学級数より熱心な教員の方がいてほしい。第三中学校は一部アルバイトの方や我が物顔で生徒に接し授業も雑談で済ます方がいて残念です。
- ・支援学級と支援専門の先生の確立への配慮。
- ・先生達の業務量の適正化。
- ・高いレベルでの教職員の質の維持。
- ・担任外の多様な授業。
- ・平等な質（教育や学校生活など）。
- ・少人数による選択性のある授業&活動。
- ・中学校において、学区の考え方ではなく、それぞれの学校が学力・芸術・スポーツ等に特化した取り組みを行い、伸ばしたい特技をより伸ばすことのできるよう校区は自由とする。
- ・中学校の教育レベルの統一。

- 児童生徒の充実できたを実感できる教育体制の確立。
- 地域の事情。
- 地域事情への配慮。
- 地域の皆さんの思い。
- 歴史も考慮してください。
- 地域の事情。
- 周辺の都市構造を配慮すべき。
- 倉治小だけが児童数増えたり、都市計画をきちんとすべきです。
- 一貫教育は必要ないが、小中の連携をしっかりと取ることが大切だと思う。
- 1～5すべて配慮すべきこと。
- 規律を守れない子が増えたなどと言われる事の無いように。
- 授業で使用する教材・備品などのおさがりの制度。数回しか使用していない物でも学年が変わると全く使わなくなるため。
- 通学時歩行距離が1km以上の時は保護者、生徒の希望があるときは自転車通学を認めるなど、生徒数を確保できるように考え、通学時の変質者から生徒を守るという点を検討してはどうかと思う。
- 移行措置の実施や選択制など柔軟な措置を講じてほしい。
- 早急な対応。
- 時代に合ったものをすれば良いが、基本的な考えを持ちましょう。
- 友達をたくさん作ってほしいので合併は反対ではありませんが、先生のストレスが増えないようにしてほしい。
- 子供の変化がなるべくわかり易い見守れる人数。児童が多くならないように考えてほしい。
- 学校の数が減ったとしても、生徒が好きな部活などあれば続けられるように配慮してほしい。
- 学校ごとにバラつきのある教育水準。どこも同じ位のレベルや子供の状態（荒れていない）であれば、校区の引き直しをしても問題は出てきにくいのではないか。
- 精神不安定者も増えていくと思うので、校区の安全性。公園の整備。歩道の設備が整えば住みやすく人口も増える。
- 統廃合により、通学に支障が出る所には、スクールバス等を考えるべきと思う。
- 教育委員会や市の立場で進めるべきではない。
- 少ない学校だったら体育祭などは学校対抗でしても面白いと思う。
- 学校によって違いがあまりあるような点。
- 子どもの考え。
- 各地域の特長があるので、それを大切に伸ばしていけるような進め方をしてほしい。
- 市の財政。

2. 教職員用アンケートその他意見

問2-2 その他意見 問2で「1学級あたり20人以下」または「1学級あたり21人～30人」と答えられた方の理由

- ・26～30人が望ましい。
- ・一人一人と会話できノートも見て教育にあたる。
- ・1～4全て。
- ・一人一人に目が行き届きやすい。

問2-3 その他意見 問2で「1学級あたり31人～35人」、「1学級あたり36人～40人」、「1学級あたり41人以上」と答えられた方の理由

- ・多くの意見が聞ける、全体を見渡せる。
- ・担任業務として、少人数の方がよりきめ細かく指導できるし、目が行き届くと思う。
- ・本当は30人以下がよいが、現状より少人数で現実的な数である31～35人を選択。
- ・個々の責任感が増す（教師も）。

問3-3 その他意見 問3で「1学年あたり3学級」、「1学年あたり4学級」、「1学年あたり5学級以上」と答えられた方の理由

- ・クラスを一緒にできない児童が多すぎるため。5学級以上だと人数が多すぎる。
- ・学級数が少ないと教員数も少なく、学校として機能しづらい。
- ・1クラスの人数は、少ない方がよい。
- ・学年運営に様々な考えや能力を結集できる。
- ・先生も子ども同士も保護者も含めて子どもたちがたくさんの人と出会える。
- ・たくさんの目で子どもを多面的に見る事ができる。
- ・生徒指導上の対応の為。

問4-2 その他意見 問4で「1学級あたり20人以下」または「1学級あたり21人～30人」と答えられた方の理由

- ・1～4全て。

問4-3 その他意見 問4で「1学級あたり31人～35人」、「1学級あたり36人～40人」、「1学級あたり41人以上」と答えられた方の理由

- ・担任業務として、少人数の方がよりきめ細かく指導できるし、目が行き届くと思う。
- ・6人6班程度など教育の歴史上のノウハウがある。
- ・40人学級に比べ目が行き届きやすい

問5-2 その他意見 問5で「1学年あたり1～2学級」または「1学年あたり3～4学級」と答えられた方の理由

- ・担当教師の割り振りがしやすい。
- ・学年として活動しやすい。

問5-3 その他意見 問5で「1学年あたり5学級」、「1学年あたり6学級」、「1学年あたり7学級以上」と答えられた方の理由

- ・少ない学級数だと教員数も少なく、学校として機能しづらい。
- ・1クラスの人数は、少ない方がよい。
- ・教師数が増えることで仕事の取り組みがやりやすくなる。教師間の交流・刺激が生まれる。
- ・問題に対応する教員数が多い方がよい。
- ・生徒指導上の対応の為。
- ・クラス分けの時配慮がしやすい。

問8 その他意見 公立小・中学校に期待する役割・機能があればご自由にお書きください。

- ・小中学校の本来の機能である教育施設としての役割があくまで基本であるとして、この基本的な力が伸びるならば、副次的な機能を持たせてもよいと思う。ただやみくもに役割絵を担っていくのは、職員・子ども双方の負担となる。
- ・「学びかた」を学ぶ場、環境。
- ・通学に関して先生の責任は全く無い。PTA等での教育などが必要。
- ・35人学級にせめてしてほしい。少ない方が、目が届き、個別の時間を確保することができるから。
- ・遊びに行ける（フリースペース等）。
- ・小学校中学校又は幼稚園の先生が互いに行き来できるくらいの立地。
- ・公立学校に期待される役割が多すぎるので、むしろスリム化が必要だと考える。
（人員の増員やシステムの改善も同時に必要）
- ・地域を基盤とした学校運営。
- ・地域交流の場、区民の祭り、スポーツ大会など。
- ・社会教育に触れる機会を与える場。
- ・小中学校の建物・施設は老朽化が進んでおり安全衛生・ICTなどの技術革新にも対応していない。
多目的化する為には、一層の整備拡充が必要である。

問9 その他意見 適正配置について、交野市として今後どのようにすることが望ましいですか

- ・学校の再配置を理由に職員数を減らさないこと。
- ・学級数に関わらず、学校までの距離が遠くならないようにしてほしい。

- ・1学年20人切るまで再配置は考えなくて良い。
- ・選択肢1、2について、学校は地域の中で存在し、地域との関わりは配慮が必要ですが、とても難しい点なので、一つに決めることができません。
- ・学級も保てないような場合、適正配置を進めるべき。
- ・学校数はそのまま、校区変更等で学校規模を確保すべきである。
- ・地域の事情を第一に考えるべきである。
- ・1学級あたりの児童生徒数を減らすべき。学力観の転換が叫ばれている昨今、現在の1学級あたりの児童生徒数は多い。今後の日本のことを考え国や地方が教育に力を入れるべきである。
- ・各学校の児童生徒数を約半分にできるチャンスと考えるべきだ。
- ・地域の事情を十分に考える事。子供の数だけでなく学級数の変化を出すこと。現在までの学級数の変化と今後数十年の変化を示すこと。

問10 その他意見 学校の適正配置を進めるうえで、配慮すべき点と思うものを3つ選んでください。

- ・職員数の確保。
- ・学習環境。
- ・地域性。
- ・学校間の教職員定数のバランス。
- ・中学校は住所で校区分けしたらどうか、同じ小学校に通っていても中学校は別になるというかんじ。
- ・一人ひとりの個性に応じ、それぞれの教育的ニーズに対応するためには、1学級あたりの人数が少ない方がよいと思う。
- ・1学級あたりの児童（生徒）数と、教職員数の適正化、1年生副担任加配含む。
- ・人材（教職員）確保。
- ・35人以下の学級になるように。
- ・児童一人に対する教員数を現状維持する。
- ・生徒指導上での情報交換。
- ・教育費無償化など少子化対策による児童生徒増を目指す政策。
- ・家庭に問題のある地域、例えば団地のある所とか。
- ・1学級あたりの児童生徒数の適正化。
- ・教育・教員の質の確保。
- ・教師の適正配置。
- ・教職員の雇用。
- ・学級数を減らさず、1学級の人数を減らすべき。
- ・適正化ありきで進めるべきではない。
- ・教育の適正配置。

V. 調査結果について

今回実施した「学校規模適正化に関するアンケート調査」では、保護者用アンケート調査においては中学3年生を除く市立小中学校全14校各学年の保護者及び、市立幼稚園全3園5歳児クラスの保護者より、概ね80%程度の回収率で有効な回答を得ることができた。また、教職員用アンケート調査においては、市立小中学校全14校の教職員を対象に平均85%以上の回収率で、有効な回答を回収することができた。

ただし、保護者用アンケート調査においては、小学校1・3・5年の1組又は2・4・6年の1組の保護者、中学校1・2年の1組の保護者、幼稚園は5歳児クラスの全保護者を対象として実施しており、かつ、無記名形式での調査であったことから、回答の一部については、同一保護者による複数回答の可能性があると留意する必要がある。

本アンケート調査の結果から、保護者及び教職員の意識について以下のようなことが推察される。

1. 小学校の学級人数について

1学級あたりの人数は21～30人が望ましいとする保護者・教職員が多い。

小学校の学級人数については、保護者回答で53%が「1学級あたり21～30人」、35%が「1学級あたり31～35人」を選択した。また、教職員回答でも66%が「1学級あたり21～30人」、24%が「1学級あたり31～35人」を選択した。

「1学級あたり20人以下」との選択は、保護者回答で4%、教職員回答で9%となった。

全体として、「1学級あたり21～30人」との回答が最も多く、これは小規模校（クロス集計②の長宝寺小学校のこと）でも同様の傾向であったが、中学生保護者では、「1学級あたり31～35人」との回答が最も多く、次いで「1学級あたり21～30人」との回答が多い結果となった。

「1学級あたり20人以下」が望ましいと考える保護者・教職員がそのように回答した理由では、「ていねいな学習指導を受けることができる。」次いで「ひとりひとりが大切にされる。」との回答が多く、これらが全体の大半を占めていた。一方、「1学級あたり31～35人」が望ましいと考える保護者・教職員がそのように回答した理由は、「集団内で色々な役割分担を経験できる。」や「多くの児童との交流が生まれる。」の選択が多い結果となった。

2. 小学校の学級数について

1学年あたりの学級数は3学級が望ましいとする保護者・教職員が多い。

小学校の学級数については、「1学年あたり3学級」との回答が保護者で57%、教職員で64%と最も多かった。また、「1学年あたり2学級」「1学年あたり4学級」の選択が次いで多く、保護者でそれぞれ18%、20%の回答率であり、教職員でそれぞれ19%、13%であった。この傾向は、小学校・中学校・幼稚園各保護者の別に関わらず見られた。

「1学年あたり2学級」が望ましいと考える保護者・教職員がそのように回答した理由では、「ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる。」「学校行事などでひとりひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる。」の選択が多かった。また、「1学年あたり3学級」以上の規模が望ましいと考える保護者・教職員がそのように回答した理由では「クラス替えがあり、たくさんの友達ができる。」が最も多く、次いで「児童が相互に刺激しあい、切磋琢磨（せっさたくま）する機会が増える。」との回答が多かった。

3. 中学校の学級人数について

1学級あたりの人数については31～35人が望ましいとする保護者・教職員が多い。

中学校の学級人数については、「1学級あたり31～35人」との回答が一番多く保護者で45%、教職員では49%であった。次いで、「1学級あたり21～30人」との回答が多く保護者で29%、教職員で35%であった。また、「1学級あたり36～40人」については、保護者では20%の選択があったが、教職員では8%にとどまった。この傾向は、小学校・中学校・幼稚園各保護者及び教職員の別に関わらず見られた。

「1学級あたり21～30人」以下の規模が望ましいと考える保護者・教職員がそのように回答した理由では、「ていねいな学習指導を受けることができる。」が最も多く保護者・教職員とも全体の60%以上であった。一方、「1学級あたり31～35人」以上の規模が望ましいと考える保護者・教職員がそのように回答した理由では、「多くの生徒との交流が生まれる。」「社会性を身に付ける機会がある。」「集団内で色々な役割分担を経験できる。」との回答がそれぞれ25%～30%程度であった。

4. 中学校の学級数について

1学年あたりの学級数は3～4学級、5学級、6学級が望ましいとの回答が保護者・教職員とも大部分であった。

中学校の学級数については、「1学年あたり3～4学級」「1学年あたり5学級」「1学年あたり6学級」との回答がそれぞれ保護者で30%、34%、28%、また、教職員で38%、32%、22%であり、これらを合わせると保護者・教職員とも全体の92%程度であった。また、この傾向は小学生保護者・中学生保護者では一致したものの、幼稚園保護者では「1学年あたり3～4学級」の回答比率が小学生保護者・中学生保護者と比べて10%程度高かった。また、小規模校では「1学年あたり6学級」との回答比率が14%程度低い結果となった。

また、「1学年あたり3～4学級」以下の規模が望ましいと考える保護者・教職員がそのように回答した理由は「ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる。」「学校行事などでひとりひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる。」が多かった。一方、「1学年あたり5学級」以上の規模が望ましいと考える保護者・教職員がそのように回答した理由は「クラス替えがあり、たくさんの友達ができる。」が30%程度で、「専門教科の先生に教えてもらえる機会が増える。」「クラス替えがあり、たくさんの友達ができる。」「クラブ活動や選択教科の選択の幅が広がる。」がそれぞれ20%程度であった。

5. 小学校の通学距離について

小学校の通学距離については、2～3km以内が通学可能範囲とする保護者・教職員が多い。

小学校の通学距離については、「2km以内」が通学可能範囲とする回答が最も多く保護者・教職員とも36%であった。次いで、「3km以内」との回答が保護者で28%、教職員で31%となり、「4km以内」が保護者で18%、教職員が22%、「1km以内」が保護者で13%、教職員で7%であった。また、この傾向は小学校保護者・中学校保護者・幼稚園保護者で概ね一致するものの、小学校保護者では他と比べて「3km以内」との回答が7%程度多かった。また、長宝寺小学校では「1km以内」との回答比率が高く、「3km以内」「4km以内」との回答比率は少なかった（ただし、長宝寺小学校については、校区面積が他の小中学校と比べて小さいことから、現状通学遠距離地区が少ないことも影響があると考えられる。

6. 中学校の通学距離について

中学校の通学距離については、4km以内が通学可能範囲とする保護者・教職員が多い。

中学校の通学距離については、「4km以内」との回答が最も多く保護者で43%、教職員で47%であった。次いで、「6km以内」が保護者で28%、教職員で32%となり、「2km以内」が保護者で20%、教職員で10%であった。また、この傾向は小学校・中学校・幼稚園各保護者の別に関わらず見られた。また、小規模校では小学校の通学距離と同じく、「2km以内」との回答が多く「6km以内」との回答が少ない傾向がみられた。

7. これからの小中学校に期待する役割・機能について

これからの小中学校に期待する役割・機能として「児童・生徒が快適に学習できる環境」「地域の防災拠点として安全・安心な施設であること」が重要であると考え保護者・教職員が多い。

これからの小中学校に期待する役割・機能として「児童・生徒が快適に学習できる環境」「地域の防災拠点として安全・安心な施設であること」について、「とても重要である」または「まあ重要である」と回答した保護者の比率は前者で99%、後者で97%であり、教職員では前者99%、後者96%であった。加えて、これらの役割・機能では「とても重要である」との回答比率が「まあ重要である」と比べて高かった。「地域に開かれた文化・スポーツ活動の拠点であること（図書館・学校開放など）」については、「とても重要である」または「まあ重要である」と回答した保護者の比率は84%であり、教職員では73%であった。また「子育て支援機能との複合化」「高齢者福祉機能との複合化」について、「とても重要である」または「まあ重要である」と回答した保護者の比率は前者78%、後者61%であり、教職員では前者76%、後者58%であった。

この傾向は小学校・中学校・幼稚園各保護者の別に関わらず、また、学校規模の別に関わらず見られた。

8. 学校の適正配置の進め方について

学校の適正配置を進めるにあたっては、一定の基準で全市についての計画を立て、地域の事情に配慮しながら学校の適正配置を進めるべきであると考え保護者・教職員が多い。

学校の適正配置を進めるにあたっては「適正な学校規模や学級規模を確保するため、一定の基準で全市についての計画を立て、地域の事情に配慮しながら学校の適正配置を進めるべき」との回答が最も多く保護者で57%、教職員で69%であった。次いで、「1学年1学級しかないような単学級学年が存在するような場合には、適正な学校規模や学級規模を確保するため、当該学校の適正配置を進めるべき」が保護者で27%、教職員で19%であった。この傾向は、小学校・中学校・幼稚園各保護者の別に関わらず見られた。また、小規模校では「1学年1学級しかないような単学級学年が存在するような場合には、適正な学校規模や学級規模を確保するため、当該学校の適正配置を進めるべき」との回答が50%、「適正な学校規模や学級規模を確保するため、一定の基準で全市についての計画を立て、地域の事情に関わらずその計画に基づいて学校の適正配置を進めるべき」との回答が18%となるなど、傾向の違いが見られた。

9. 学校規模の適正化を進める上で配慮すべき点について

学校規模の適正化を進める上にあたっては、保護者では「児童・生徒の通学（距離・方法）とその安全」について配慮すべきであるとの回答が多く、教職員では「適正な学級数の確保」「児童・生徒の通学（距離・方法）とその安全」「校舎の施設整備」との回答が多い。

学校規模の適正化を進めるにあたっては、保護者では「児童・生徒の通学（距離・方法）とその安全」に配慮すべきとの回答が32%で最も多く、次いで「適正な学級数の確保」が21%、「校舎の施設整備」が19%であった。教職員では「適正な学級数の確保」「児童・生徒の通学（距離・方法）とその安全」「校舎の施設整備」には配慮すべきであるとの回答がそれぞれ25%程度であった。「小・中学校9年間を見通した一貫教育の推進」に配慮すべきとの回答は、保護者で15%、教職員で13%であり、「児童・生徒同士の事前交流授業や学校行事の共同開催などの教育活動」に配慮すべきとの回答は、保護者で12%、教職員で9%であった。この傾向は、小学校・中学校・幼稚園各保護者の別に関わらず見られた。また、小規模校においては「適正な学級数の確保」に配慮すべきとの回答が31%と最も多く、次いで「児童・生徒の通学（距離・方法）とその安全」が26%であった。